

﴿٥٣﴾ وَمَا أَجْرِي نَفْسِي إِنَّ النَّفْسَ لَأَمَّارَةٌ بِالسُّوءِ إِلَّا مَرَحِمَ رَبِّي
 إِنَّ رَبِّي غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٥٤﴾ وَقَالَ الْمَلِكُ أَتُؤْتُونِي بِهِ أَسْتَخْلِصُهُ
 لِنَفْسِي فَلَمَّا كَلَّمَهُ وَقَالَ إِنَّكَ الْيَوْمَ لَدَيْنَا مَكِينٌ ﴿٥٥﴾ آمِينَ ﴿٥٦﴾
 قَالَ أَجْعَلْنِي عَلَى خَزَائِنِ الْأَرْضِ إِنِّي حَفِيظٌ عَلَيْمُ ﴿٥٧﴾ وَكَذَلِكَ
 مَكَّنَّا لِيُوسُفَ فِي الْأَرْضِ يَتَّبِعُوا مِمَّا حَيْثُ يَشَاءُ نُصِيبُ
 بِرَحْمَتِنَا مَنْ نَشَاءُ وَلَا نُنْضِيعُ أَجْرَ الْمُحْسِنِينَ ﴿٥٨﴾ وَلَا أَجْرَ
 الْآخِرَةِ خَيْرٌ لِلَّذِينَ ءَامَنُوا وَكَانُوا يَتَّقُونَ ﴿٥٩﴾ وَجَاءَهُ
 إِخْوَتُهُ يُوسُفَ فَدَخَلُوا عَلَيْهِ فَعَرَفَهُمْ وَهُمْ لَهُ وَمُنْكَرُونَ ﴿٦٠﴾
 وَلَمَّا جَهَّزَهُمْ بِجَهَّازِهِمْ قَالَ أَتُؤْتُونِي بِأَخٍ لَكُمْ مِنَ أَبِيكُمْ أَلَا
 تَرَوْنَ أَبِي أَوْ فِي الْكَيْلِ وَأَنَا خَيْرُ الْمُنْزِلِينَ ﴿٦١﴾ فَإِنْ لَمْ تَأْتُونِي
 بِهِ ۖ فَلَا كَيْلَ لَكُمْ عِنْدِي وَلَا تَقْرُبُونِ ﴿٦٢﴾ قَالُوا سَنُرَدُّ عَنْهُ أَبَاهُ
 وَإِنَّا لَفَاعِلُونَ ﴿٦٣﴾ وَقَالَ لِفَتَاتِهِ أَجْعَلُوا بِضْعَتَهُمْ فِي رِحَالِهِمْ
 لَعَلَّهُمْ يَعْرِفُونَهَا إِذَا انْقَلَبُوا إِلَىٰ أَهْلِهِمْ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٦٤﴾
 فَلَمَّا رَجَعُوا إِلَىٰ أَبِيهِمْ قَالُوا يَا أَبَانَا مُنِعَ مِنَّا الْكَيْلُ
 فَأَرْسِلْ مَعَنَا آخَانَ نَكْتَلْ وَإِنَّا لَهُ لَحَافِظُونَ ﴿٦٥﴾

﴿53﴾かの女は続けて言った。悪を志向することから無縁ではなく、自分の無実を訴えるわけではありません。主が慈悲をかけない限り、人間の心は欲望に満ちて、それに蓋をして防護するのは難しいのです。本当にわたしの主はよく改める人は赦すお方で、慈悲深いお方です。

﴿54﴾ユースフの無罪と知恵が明らかとなり、その王は言った。わたしの元にかれを連れてくるがよい。わたしがかれを召し抱えよう。そこでかれ(王)はかれ(ユースフ)と話をし、その知識と知性が明確となったのを認めて明言した。「ユースフよ、今日からあなたはわたしの元で重用され、名誉を与えられ、信頼される者となった。」

﴿55﴾かれは言った。わたしにこのエジプト国の国庫と貯蔵庫をお任せください。わたしは真に知識もあり、慎重で、見識もあります。

﴿56﴾このようにわれらはユースフに無罪と牢獄からの釈放を可能にしたように、エジプトにおいてかれが、どこでも望むところに住めるようにした。われらは望む人に、われらの慈悲を与え、決して善行者への報奨を無駄にはしない。それどころか、全く欠けるところなく、完璧にそれを授けるのである。

﴿57﴾信仰してアッラーを畏れ、アッラーを信奉してその命令に従い、禁則を避けている人々にとっては、来世の報奨が現世での報いより良いのである。

﴿58﴾ある日、ユースフの兄たちが来て、かれの前にまかり出た。かれはかれらを認めたけれど、かれらは昔彼を井戸に投げ入れてから長年経過していたので、かれに気づけなかった。

﴿59﴾かれはかれらに食糧を与えてから、その父親の所にもう一人の兄弟がいると言うのを聞いて言った。あなた方の父から、もう一人の兄弟(ビン・ヤーマン)をわたしの元に連れて来い。そうすればラクダの荷物もさらに追加されよう。あなた方は、わたしが目一杯に計量したのを、そしてまた、わたしが最良のもてなしをする者であることを見なかったのか。

﴿60﴾でもあなた方が、かれを連れてこないならば、あなた方はもう一人兄弟がいるということに嘘をついたことになるので、わたしの所でどう計ってもらえず、わたしの国に近づくこともできないのだ。

﴿61﴾かれらは言った。わたしたちはかれ(ビン・ヤーマン)のために、かれの父を説得します。精一杯、必ずやります。

﴿62﴾それからユースフは、かれの部下たちに言った。かれらの商品を再びかれらの袋に入れて戻して置け。そうすることで、かれらは自分の家に帰ったとき、自分の商品を納めていなかったことに気づいて、兄弟と共に戻ってくるだろう。そうして自分たちの身の潔白を示し、商品を受領してくれと願うに違いない。

﴿63﴾それでかれらは父のところに戻ると、ユースフの歓待ぶりを話した。わたしたちの父よ、わたしたちは(これ以上食糧を得るための)計量を拒否されました。だから、わたしたちの弟(ビン・ヤーマン)をわたしたちと一緒に送り出してください。そうすれば計量してもらえるし、他方わたしたちはしっかりかれを守ります。

本諸節の功德:

- 信者の敵の一人は、一番身近にいる自分自身であるかもしれない。だからそれを監視し、その逸脱を矯正しなければいけない。
- 高位を占める人に知識と信頼性が備わっていれば、民衆は安心できる。
- 来世におけるアッラーの恩寵は、信仰する人たちにとっては(現世のものよりも)、より善くて、より永続し、より好ましいものである。
- より善いことと改善を求め、その必要があるならば、地位を求め、自画自賛することも是認される。

قَالَ هَلْ ءَامَنُكُمْ عَلَيْهِ إِلَّا كَمَا ءَامَنُكُمْ عَلَىٰ أَخِيهِ مِنْ
 قَبْلُ فَأَلَّهٖ خَيْرٌ حَفِظًا وَهُوَ أَرْحَمُ الرَّحِيمِينَ ﴿٦٤﴾ وَلَمَّا فَتَحُوا
 مَتَاعَهُمْ وَجَدُوا بِضْعَتَهُمْ رُدَّتْ إِلَيْهِمْ قَالُوا يَا بَنَاتَنَا
 مَا نَمْنَعِي هَذِهِ بِضْعَتُنَا رُدَّتْ إِلَيْنَا وَنَمِيرُ أَهْلَنَا وَحَفِظًا
 أَخَانًا وَنَزَدًا وَكَيْلٌ بِعَيْرِ ذَلِكَ كَيْلٌ يَسِيرٌ ﴿٦٥﴾ قَالَ
 لَنْ أُرْسِلَهُ وَمَعَكُمْ حَتَّىٰ تُؤْتُونِ مَوْثِقًا مِّنَ اللَّهِ لَتَأْتُنِي
 بِهِ إِلَّا أَن يُحَاطَ بِكُمْ فَلَمَّآ ءَاتَوْهُ مَوْثِقَهُمْ قَالَ اللَّهُ عَلَىٰ مَا
 نَقُولُ وَكَيْلٌ ﴿٦٦﴾ وَقَالَ يَبْنَىٰ لَا تَدْخُلُوا مِن بَابٍ وَحِدٍ
 وَأَدْخُلُوا مِن أَبْوَابٍ مُّتَفَرِّقَةٍ وَمَا أُعْنِي عَنكُم مِّنَ اللَّهِ مِنْ
 شَيْءٍ إِنِ الْحُكْمُ إِلَّا لِلَّهِ عَلَيْهِ تَوَكَّلْتُ وَعَلَيْهِ فَلْيَتَوَكَّلِ
 الْمُتَوَكِّلُونَ ﴿٦٧﴾ وَلَمَّا دَخَلُوا مِنْ حَيْثُ أَمَرَهُمْ أَبُوهُمَا كَانَ
 يُغْنِي عَنْهُم مِّنَ اللَّهِ مِنْ شَيْءٍ إِلَّا حَاجَةً فِي نَفْسِ يَعْقُوبَ
 قَضَاهَا وَإِنَّهُ لُدُوْعٌ عَلِيمٌ لِّمَا عَلَّمْتَهُ وَلَكِنَّ كَثْرَةَ نِّسَابِ
 لَّا يَعْلَمُونَ ﴿٦٨﴾ وَلَمَّا دَخَلُوا عَلَىٰ يُوسُفَ ءَاوَىٰ إِلَيْهِ أَخَاهُ
 قَالَ إِنِّي أَنَا أَخُوكَ فَلَا تَبْتَئِسْ بِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٦٩﴾

⑥4 父親(ヤアクーブ)は言った。わたしは以前、かれの兄(ユースフ)についてあなた方を信用したように、かれ(弟)についてあなた方を信用できるだろうか。その時は、信用もし、あなた方はかれを守るとも言った。しかしそれに反したので、もう信用もできないのだ。他方、アッラーは最高の守護者で、かれこそは慈悲ある存在の中で最も慈悲深いお方なのだ。

⑥5 かれらが食料の荷物を開くと、商品がかれらに返されているのを見つけた。かれらは言った。わたしたちの父よ、わたしたちは(この上)何を望みましょう。わたしたちの商品が自分たちに返されているのは、かれの配慮です。わたしたちの家族に(もっと)食糧がもらえ、さらにわたしたちは弟を守り、ラクダ1頭分の増量を得るでしょう。そのくらいの計量は、あの王には容易でしょう。

⑥6 かれ(ヤアクーブ)は言った。(死あるいは敵兵などに)取り囲まれて動きが取れないとき以外は、あなた方がかれを連れて戻ると、アッラーにかけて約束しない限り、わたしはかれをあなた方と一緒に送り出しはしないだろう。こうしてかれらがかれ(ヤアクーブ)に誓ったとき、かれは言った。アッラーは、わたしたちの言うことの証人だ。

⑥7 またかれ(ヤアクーブ)は助言として、次のように言った。わたしの息子たちよ、一つの門から(町に)入ってはいけない。別々の門から入りなさい。そうしないとあなた方を襲おうという人がその害を全員に広めることとなる。しかしアッラーが望まれる害まで防ごうというものではない。またアッラーが望まれない利益を与えるものでもない。裁定は、ただアッラーにのみあり、わたしはかれを信頼する。信頼する人は、かれにこそ頼りなさい。

⑥8 かれらは親愛なるもう一人の弟と共に旅をして、父の命じたように、別々の門からエジプトの街に入った。そのようなことをしてもアッラーの定めを変えるものでもないが、それはヤアクーブの親切心からの忠告であった。かれ

れもアッラー以外の定めはないことを知っており、またわれらが教えた信仰や天命のことや警戒の仕方を知っているが、人々の多くは知らなかった。

⑥9 さてかれらがユースフの前にまかり出たとき、ユースフはその弟(ビン・ヤーミン)をかれの方へと(他の兄たちと分けて)迎えて、そつと言った。わたしはあなたの兄ユースフである。だから今までかれらがしてきた、害悪や嫉妬やわたしを井戸に投げ入れるといった酷いことに、心を悲しませてはいけない。

本諸節の功德:

- 裏切った人には警戒するようにと、アルブハーリーとムスリムの伝える真正な預言者伝承には、「信者は同じ穴で二度刺されることはない」とある。
- 予防線を張るには、誓約を取る方法がある。つまり誰かが信託されたものを約束どおり守るかどうかが信頼性に不安があれば、そのための誓約を取ればいい。
- 誓約を取るときに、その人の能力を超えていると思われる物事は、誓約の例外とすることができる。
- 問題が起らないよう予め警戒することも、予防線を張るうちに入る。

فَلَمَّا جَهَّزَهُمْ بِجَهَّازِهِمْ جَعَلَ السَّقَايَةَ فِي رِجْلِ أَخِيهِ
 ثُمَّ أذَّنَ مُؤَذِّنٌ أَيُّهَا الْعَبْرِيُّ إِنَّكُمْ لَسَادِرِقُونَ ﴿٧٥﴾ قَالُوا
 وَأَقْبَلُوا عَلَيْهِمْ مَاذَا تَفْقِدُونَ ﴿٧٦﴾ قَالُوا نَفَقْدُ صَوَاعَ الْمَلِكِ
 وَلَمَنْ جَاءَ بِهِ هِجْلٌ بَعِيرٍ وَأَنَا بِهِ زَعِيمٌ ﴿٧٧﴾ قَالُوا تَاللَّهِ
 لَقَدْ عَلِمْتُمْ مَّا جِئْنَا لِنُفْسِدَ فِي الْأَرْضِ وَمَا كُنَّا سَادِرِقِينَ
 ﴿٧٨﴾ قَالُوا فَمَا جَزَاؤُهُ إِنْ كُنْتُمْ كَاذِبِينَ ﴿٧٩﴾ قَالُوا جَزَاؤُهُ
 مِنْ وُجْدٍ فِي رِحْلِهِ فَهُوَ جَزَاؤُهُ كَذَلِكَ تَجْرِي الظَّالِمِينَ
 ﴿٨٠﴾ فَبَدَأَ بِأَوْعِيَّتِهِمْ قَبْلَ وِعَاءِ أَخِيهِ ثُمَّ اسْتَخْرَجَهَا مِنْ
 وِعَاءِ أَخِيهِ كَذَلِكَ كَدْنَا لْيُوسُفَ مَا كَانَ لِيَأْخُذَ أَخَاهُ
 فِي دِينِ الْمَلِكِ إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ نَرْفَعُ دَرَجَاتٍ مَن نَّشَاءُ
 وَفَوْقَ كُلِّ ذِي عِلْمٍ عَلِيمٌ ﴿٨١﴾ * قَالُوا إِنْ يَسْرِقْ
 فَقَدْ سَرَقَ أَخٌ لَّهُ مِنْ قَبْلٍ فَأَسْرَهَا يُوسُفَ فِي نَفْسِهِ
 وَلَمْ يُبَدِّهَا لَهُمْ قَالِ أَنْتُمْ شَرُّ مَكَانٍ وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا
 تَصِفُونَ ﴿٨٢﴾ قَالُوا يَا أَيُّهَا الْعَزِيزُ إِنَّ لَهُ أَبًا شَيْخًا كَبِيرًا
 فَخُذْ أَحَدَنَا مَكَانَهُ إِنَّا نَنْتَرُكَ مِنَ الْمُحْسِنِينَ ﴿٨٣﴾

⑦⑩ ユースフは、かれらに食糧を与えてから、弟の荷物袋の中に食料を計量する王の盃をそっと入れさせた。実はそれは弟を残らせるためであった。一行が帰省のため出発したところ、追手の男が呼びかけた。隊商よ、あなた方は泥棒だぞ。

⑦⑪ かれら兄たちは振り向いて言った。そして兄たちは、あなた方は何をなくしたと言うのか、と問うた。

⑦⑫ かれら追手たちは言った。わたしたちは、王の盃をなくした。それを調べる以前に持って来た人には一頭のラクダ積載分の食糧を与えられるだろう。わたしが保証する。

⑦⑬ ユースフの兄たちは言った。アッラーにかけて誓う。わたしたちは、無罪であり、この国で悪事を働くために来たのではないことは、あなた方がご存知のところ。わたしたちは泥棒ではない。

⑦⑭ かれら追手は言った。あなた方が盗みはしないということについて、嘘つきであったら、その盗みの応報は何としようか。

⑦⑮ かれら兄たちは言った。その応報は、荷物袋の中から王の盃が発見された人を奴隷として提供するのだ。つまりその人が、応報なのだ。このように、わたしたちは盗みを行なう人に報いる。

⑦⑯ 一行がユースフの元に戻ったので、それでかれは、弟の荷物袋の検査の前に、策として兄たちの荷物袋をまず調べ始めた。そして結局弟の荷物袋から、王の盃を取り出した。このように**われら**は、盃を隠すことや犯人を奴隷として留めおくことなど、ユースフに策略を授けた。もし奴隷にしないで鞭打ちや罰金で済ませるように、アッラーが御望みだったならば、かれはその弟ビン・ヤミンをエジプト国王の法律の下で、抑留することができなかったのだ。**われら**は望む人の位階を高める。知識ある人の上にはさらによく知る人がいるが、しかし知識あるすべての人の上には、全知なる方がいるのである。

⑦⑰ 兄たちは言った。もし弟が盗んだとすれば、かれの兄ユースフも以前、確かに盗みをした。しかしユースフは、それを自分の心に秘めて、かれらに秘密を明かさなかった。そしてかれらの嫉妬と悪態こそは罪であり、アッラーこそはかれらの虚偽を一番よくご存じだと、そしてアッラーが、あなた方の作りごとを最もよくご存知だと、ユースフは一人心中で言った。

⑦⑱ かれら兄たちは言った。大臣(ユースフ)よ、弟にはとても高齢の父がいて、かれをととても好んで愛しています。だから、かれ(弟)の代りに、わたしたちの一人を拘留してください。わたしたちはあなたが理解ある善良な方とお見受けする。だからどうか善処ください。

本諸節の功德:

- 真実実現のための策略の報いは、周囲の人に被害を及ぼさないことが条件である。
- ものを失った人がそれを見つけた人への報酬を定めることは、その価値や形状をはっきりさせれば許される。
- 被害を無視し、それを公表しないことは、美德の一つである。

قَالَ مَعَاذَ اللَّهِ أَنْ نَأْخُذَ إِلَّا مَن وَجَدْنَا مَتَعِنَا عِنْدَهُ وَإِنَّا إِذَا الظَّالِمُونَ ﴿٧٩﴾ فَلَمَّا أَسَيْتَ سَوْأَمَنَهُ خَلَصُوا نَجِيًّا
 قَالَ كَيْدُهُمْ أَلمَ تَعْلَمُونَ أَنَّ أَبَاكُمْ قَدْ أَخَذَ عَلَيْكُمْ مَوْثِقًا مِّنَ اللَّهِ وَمِن قَبْلُ مَا فَرَّطْتُمْ فِي يُوسُفَ فَلَن أَبْرَحَ الْأَرْضَ حَتَّى يَأْذَنَ لِي أَبِي أَوْ يَحْكُمَ اللَّهُ لِي وَهُوَ خَيْرُ الْحَاكِمِينَ ﴿٨٠﴾
 أَرْجِعُوا إِلَى آبَائِكُمْ فَقُولُوا يَا أَبَانَا إِنَّ ابْنَكَ سَرَقَ وَمَا شَهِدْنَا إِلَّا بِمَا عَلَّمْنَا وَمَا كُنَّا لِلْعَيْبِ حَافِظِينَ ﴿٨١﴾
 وَسَعَلَ الْقَرْيَةَ الَّتِي كُنَّا فِيهَا وَالْعَيْرَ الَّتِي أَقْبَلْنَا فِيهَا وَإِنَّا لَصَادِقُونَ ﴿٨٢﴾ قَالَ بَلْ سَوَّلَتْ لَكُمْ أَنْفُسُكُمْ أَمْرًا فَصَبْرٌ جَمِيلٌ عَسَى اللَّهُ أَنْ يَأْتِيَنِي بِهِمْ جَمِيعًا إِنَّهُ هُوَ الْعَلِيمُ الْحَكِيمُ ﴿٨٣﴾ وَتَوَلَّى عَنْهُمْ وَقَالَ يَا أَسْفَىٰ عَلَىٰ يُوسُفَ وَأَبْيَضَّتْ عَيْنَاهُ مِنَ الْحُزَنِ فَهُوَ كَظِيمٌ ﴿٨٤﴾
 قَالُوا اتَّاللَّهُ تَفَتُّؤًا تَذَكَّرُ يُوسُفَ حَتَّى تَكُونَ حَرَضًا أَوْ تَكُونَ مِنَ الْهَالِكِينَ ﴿٨٥﴾ قَالَ إِنَّمَا أَشْكُوا بَنِيَّ وَحُزْنِي إِلَى اللَّهِ وَأَعْلَمُ مِنَ اللَّهِ مَا لَا تَعْلَمُونَ ﴿٨٦﴾

79 ユースフは、アッラーに加護を求めて言った。わたしたちの所有物を取り出した人(弟)ではない者を、わたしたちが拘留するとすれば、それではわたしたちが不正を行なう人になるだろう。無罪の人を罰して、有罪の人を放免するのだから。

80 そこで兄たちは、弟の身柄釈放をあきらめて、かれらの間だけで密談した。かれらの中の最年長の人が出た。あなた方の父がアッラーの御名の下に、不可抗力でなければ弟を守るという約束を結び、また以前、あなた方がユースフのことについて父への約束を守れずに誤りを犯したことを知らないでも言うのか。だから父がわたしを許すまで、わたしはこの国を離れない。またはアッラーが弟を連れ帰すように、命じるまでは離れない。かれは、真実と正義で裁かれる、至高の裁決者なのだ。

81 あなた方は父の元に帰って言いなさい。わたしたちの父よ、あなたの息子(ビン・ヤームーン)は、本当に盗みをし、かれの荷物から盃が見つかったので、エジプト王に奴隷として拘束されました。わたしたちは、知っていることの他に証言できません。かれが盗んだとは知らなかったし、もし知っていたならば、かれを連れ帰するような約束はしなかったでしょうと。

82 それで疑うならば、わたしたちがいた町の人々とわたしたちが一緒に旅した隊商に質問して下さい。わたしたちは盗難に関して、正直なのですから。

83 ヤアクーブは言った。いや、それは嘘だ、ユースフと同様に、あなた方の邪悪な心が自ら事件を引き寄せたのだ。しかし忍耐こそ美徳である。アッラーが、かれら(ユースフ、ビン・ヤームーン、長兄)をわたしに送り返されるよう願う。かれは誠に全知かつ、事態の仕切り方において英明な方である。

84 ヤアクーブは、かれらユースフの兄たちから離れて言った。ああ何と、ユースフの可愛そうなことよ。するとかれの両目は、激しく泣いたので黒目が白くなった。かれは悲痛と不安の底にいたのだった。しかしそれは人々には見せなかった。

85 かれら兄たちは言った。アッラーにかけて誓う、あなた(ヤアクーブ)はユースフを思うことを止めないならば、重態になるか死んでしまうでしょう。

86 かれは言った。わたしはアッラーに対して、自らの悲痛と不安を訴えているだけだ。わたしはアッラーの親切さ、善良さ、困った人への応答、被害者への報いといったことからして、あなた方が知らないことを、アッラーから教えられて知っているのだ。

本諸節の功德:

- 他人の罪で無罪の人を捉えることは許されない。他人の罪を転嫁することはできないのだ。
- 美しい忍耐とは、訴えがアッラーにだけしか向けられていない場合である。
- 信者はアッラーがその苦痛を除いて下さることを、完全に信じる者である。

⑧٧ わたしの息子たちよ、ユースフとかれの弟を探しに出かけろ。アッラーの救済は来ず、人々の苦悩は解消されないのではないかと絶望してはいけない。そうするのは、不信仰者である。かれらはアッラーの力の絶大さや、僕に対するひそやかな恩寵を知らないのだ。

⑧٨ それでかれらは父親の言うことに従って、ユースフの元にやって来て言った。大臣よ、災難(飢饉)と貧困がわたしたちと一族を襲ったので、粗末な品物を持って参りましたが、どうか以前同様に十分に食糧を計量し、粗末な品物を大目に見て、わたしたちに慈悲ある施しをして頂きたい。誠にアッラーは施しを与える人に、最善の報いをされます。

⑧٩ かれ(ユースフ)は、人情が湧いてきて、自分はユースフであることを明かしつつ言った。どのような結果になるかも知らないで、あなた方がユースフとかれの弟にしたことを、あなた方は知っているな。

⑨٠ かれらは驚いて言った。それではあなたは、ユースフなのですか。かれは、わたしはユースフだと言った。そしてこれはわたしの弟だ。確かにアッラーはわたしたちに恩恵を与えられて、地位も高められた。誠にアッラーを畏れ、命令に従い禁則を守り、苦難を耐え忍ぶ人には、アッラーは善行者への報奨を拒否しないどころか、そういう人のために報いを確保されるのだ。

⑨١ かれらは言った。アッラーにかけて誓う、確かにアッラーは、あなたに完璧さを授けられて、あなたをわたしたちの上に引き立てられた。わたしたちは本当に罪深く、不服従な者である。

⑨٢ かれ(ユースフ)は言った。今となっては、あなた方に咎(とが)めはなく、懲罰や非難もない。アッラーはあなた方をお赦しになったのであり、かれは慈悲あるものの中でも、最も慈悲深いお方なのである。

⑨٣ 父親の目に何が起こったかを知った時、ユースフは自分のシャツを持って行きなさい、そしてそれをわたしの父の顔に投げかけなさい、かれは視力を回復するでしょうと言った。それからあなた方の家族全員で、わたしのところに来なさい。

⑨٤ 隊商がエジプトから出発し、人里を離れたとき、かれらの父はそこにいた息子たちや同郷の人々に言った。たとえあなた方がわたしヤアクーブを老いぼれと思って、何を言っているのか、などと言おうが、確かにわたしにはユースフの匂いがするのだ。

⑨٥ かれらは言った。アッラーにかけて誓う、それはあなたのユースフに関する勘違いで、再びかれと会えるという昔からの幻想である。

本諸節の功德:

- ヤアクーブが苦難に責められ続け、年よりになっても、アッラーに関する知識と楽観性は変わらないのは、素晴らしい。
- 間違いをしてもそれを悔い改めて、害を与えた人の赦しを請うことは、善い行いである。
- 現世と来世において、最高の位階を得るのは、アッラーを畏れて忍耐強くする人である。
- 特に可能な時には、人が誤るのを受け止めて報復せず、過ぎたことでは責めないことである。

يَجِبْنَ أَذْهُبُوا فَتَحَسَّسُوا مِنْ يُوسُفَ وَأَخِيهِ وَلَا تَأْتِسُوا
مِنْ رَوْحِ اللَّهِ إِنَّهُ لَا يَأْتِسُ مِنْ رَوْحِ اللَّهِ إِلَّا الْأَقْوَمُ
الْكَافِرُونَ ﴿٨٧﴾ فَلَمَّا دَخَلُوا عَلَيْهِ قَالُوا يَا أَيُّهَا الْعَزِيزُ
مَسْنَا وَأَهْلَنَا الضُّرُّ وَجِئْنَا بِبِضْعَةٍ مُنْجَلَةٍ فَأَوْفَ لَنَا
الْكَيْلَ وَتَصَدَّقْ عَلَيْنَا إِنَّ اللَّهَ يَجْزِي الْمُتَصَدِّقِينَ
﴿٨٨﴾ قَالَ هَلْ عَلِمْتُمْ مَا فَعَلْتُمْ بِيُوسُفَ وَأَخِيهِ إِذْ أَنْتُمْ
جَاهِلُونَ ﴿٨٩﴾ قَالُوا لَئِنْ لَمْ نَكُ لَأَنْتَ يُوسُفَ قَالَ أَنَا يُوسُفُ
وَهَذَا أَخِي قَدْ مَنَّ اللَّهُ عَلَيْنَا إِنَّهُ مَنْ يَتَّقِ وَيَصْبِرْ فَإِنَّ
اللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجْرَ الْمُحْسِنِينَ ﴿٩٠﴾ قَالُوا تَاللَّهِ لَقَدْ
ءَاثَرْنَاكَ اللَّهُ عَلَيْنَا وَإِنْ كُنَّا لَخِطِئِينَ ﴿٩١﴾ قَالَ لَا تَتْرِبَ
عَلَيْكُمْ الْيَوْمَ يَغْفِرُ اللَّهُ لَكُمْ وَهُوَ أَرْحَمُ الرَّاحِمِينَ
﴿٩٢﴾ أَذْهَبُوا بِقَمِيصِي هَذَا فَأَلْقُوهُ عَلَى وَجْهِ أَبِي يَأْتِ
بَصِيرًا وَأْتُونِي بِأَهْلِكُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٩٣﴾ وَلَمَّا فَصَلَتِ
الْعِيرُ قَالَ أَبُوهُمْ إِنِّي لَأَجِدُ رِيحَ يُوسُفَ لَوْلَا أَنْ
تُفِيدُونِ ﴿٩٤﴾ قَالُوا تَاللَّهِ إِنَّكَ لَفِي ضَلَالِكَ الْقَدِيرِ ﴿٩٥﴾

فَلَمَّا أَنْ جَاءَ الْبَشِيرُ أَلْفَهُ عَلَى وَجْهِهِ فَارْتَدَّ بِصِيرًا قَالَ
 أَلَمْ أَقُلْ لَكُمْ إِنِّي أَعْلَمُ مِنَ اللَّهِ مَا لَا تَعْلَمُونَ ﴿٩٦﴾ قَالُوا
 يَا أَبَانَا اسْتَغْفِرْ لَنَا ذُنُوبَنَا إِنَّا كُنَّا خَاطِئِينَ ﴿٩٧﴾ قَالَ سَوْفَ
 أَسْتَغْفِرُ لَكُمْ رَبِّي إِنَّهُ هُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ﴿٩٨﴾ فَلَمَّا
 دَخَلُوا عَلَى يُوسُفَ ءَاوَىٰ إِلَيْهِ أَبَوَيْهِ وَقَالَ ادْخُلُوا مَعِيَ
 إِن شَاءَ اللَّهُ ءَامِنِينَ ﴿٩٩﴾ وَرَفَعَ أَبَوَيْهِ عَلَى الْعَرْشِ وَخَرُّوا
 لَهُ وَسُجَّدُوا قَالَ يَا بَنِيَّ هَذَا نَأْوِي رَبِّي مِن فَبَلٌ فَدَجَمَلَهَا
 رَبِّي حَقًّا وَقَدْ أَحْسَنَ بِي إِذْ أَخْرَجَنِي مِنَ السَّبْحِ وَجَاءَ بِكُمْ
 مِنَ الْبَدْوِ مِن بَعْدِ أَنْ نَزَعَ الشَّيْطَانُ بَيْنِي وَبَيْنَ إِخْوَتِي إِنَّ
 رَبِّي لَطِيفٌ لِّمَا يَشَاءُ إِنَّهُ هُوَ الْعَلِيمُ الْحَكِيمُ ﴿١٠٠﴾ رَبِّ
 قَدْ ءَاتَيْتَنِي مِنَ الْمُلْكِ وَعَلَّمْتَنِي مِنْ تَأْوِيلِ الْأَحَادِيثِ
 فَاطِرَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ أَنْتَ وَلِيِّ فِ الدُّنْيَا وَالْآخِرَةِ
 نُوَقِّئِي مُسْلِمًا وَالْحَقِّنِي بِالصَّلَاحِينَ ﴿١٠١﴾ ذَلِكَ مِنْ أَنْبَاءِ
 الْغَيْبِ نُوحِيهِ إِلَيْكَ وَمَا كُنْتَ لَدَيْهِمْ إِذْ أَجْمَعُوا أَمْرَهُمْ
 وَهُمْ يَمْكُرُونَ ﴿١٠٢﴾ وَمَا أَكْثَرُ النَّاسِ وَلَوْ حَرَصْتَ بِمُؤْمِنِينَ ﴿١٠٣﴾

わたしの擁護者です。わたしを生涯の終わりまでムスリム(主に従順な人)として死なせて、また天国の一番高い所におわします、祖先その他の正しい預言者たちの仲間に入れてください。

⑩② この物語はわれらが、あなた(ムハンマド)に啓示したあなたが知ることのなかったお告げである。ユースフの兄たちがかれを井戸へ投げ入れ、その悪巧みを策謀したとき、あなたはかれらとその場にいなかった。しかしわれらはそれをあなたに、啓示したのだ。

⑩③ たとえあなたがどれだけ努力したとしても、人々の多くは信心を持たないだろう。それについては失望することはないように。

本諸節の功德:

- 両親に努めて孝行し、敬うことは義務である。彼らに喜びをもたらす吉報を伝えることを急ぐのも、そのようなことの1つである。
- 悪魔に警戒すること。愛する人々の間に争議が持ち上がるように、努める人にも警戒を。
- 現世や来世でどのようにうまくいっても、それは至高なるアッラーの恵みであること。
- アッラーに祈願することは、最良の結末、平安、最後の審判での勝利、そして樂園では正しい人たちと一緒にいられることである。

⑩⑥ それから吉報を伝える人が帰って来て、シャツをヤアクブの顔に投げかけると、すぐにかれは視力を回復した。かれは言った。わたしはあなた方に言わなかったか。あなた方が知らないような、アッラーの優しさと善を知っているのだ。

⑩⑦ かれらは言った。わたしたちの父よ、わたしたちのユースフとその弟に対する罪が赦されるよう祈願してください。わたしたちはかれらにしてきたことで、本当に罪深い者ですから。

⑩⑧ ヤアクブは言った。わたしはあなた方のため、わたしの主に赦しを願おう。誠にかれこそは、改心する信者にはよく赦すお方であり、慈悲深いお方なのだ。

⑩⑨ その後、かれらがユースフの元に来たとき、かれは両親を迎え、そして兄たちと家族に言った。アッラーが御望みならば、安全で何ら危害もなく、エジプトにお入りなさい。

⑩⑩ かれは両親を高座に上らせた。すると両親や兄たち全員は膝をついてかれに頭を下げた。それはかれらの法では、敬意の表明として許された行為であり、崇拜行為ではなかった。そしてかれは言った。わたしの父よ、この跪(ひざまず)いたことが以前のわたしの夢(11の星と太陽と月)の解釈です。わたしの主は、それを正夢にしました。確かにかれは、わたしを厚遇してくれました。牢獄からわたしを出し、悪魔がわたしとその兄弟との間に不和を引き起こした後、砂漠からあなた方をエジプトに連れてきたのです。真にわたしの主は、御望みの人に限りなく親切な方。かれこそは僕の状況について、全知かつ英明なお方なのです。

⑩⑪ わたしの主よ、あなたはわたしに権能を授けられ、夢の解釈を教えてくださいました。諸天と地の事例もないような新たなものの創造主よ、あなたは現世と来世での

وَمَا سَأَلْتَهُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ إِنْ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِلْعَالَمِينَ ﴿١٤٤﴾
 وَكَأَيِّن مِّنْ آيَاتٍ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يَمُرُّونَ عَلَيْهَا
 وَهُمْ عَنْهَا مُعْرِضُونَ ﴿١٤٥﴾ وَمَا يُؤْمِنُ أَكْثَرُهُمْ بِاللَّهِ إِلَّا
 وَهُمْ مُشْرِكُونَ ﴿١٤٦﴾ أَفَأَمِنُوا أَنْ تَأْتِيَهُمْ غَشِيَةٌ مِّنْ عَذَابِ
 اللَّهِ أَوْ تَأْتِيَهُمُ السَّاعَةُ بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿١٤٧﴾ قُلْ
 هَذِهِ سَبِيلِي أَدْعُو إِلَى اللَّهِ عَلَىٰ بَصِيرَةٍ أَنَا وَمَنِ اتَّبَعَنِي
 وَسُبْحَانَ اللَّهِ وَمَا أَنَا مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿١٤٨﴾ وَمَا أَرْسَلْنَا مِنْ
 قَبْلِكَ إِلَّا رَجُلًا نُوحِيَ إِلَيْهِمْ مِنْ أَهْلِ الْقُرَىٰ أَفَلَا يَسِيرُونَ
 فِي الْأَرْضِ فَيَنْظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الَّذِينَ مِنْ
 قَبْلِهِمْ وَلَدَارُ الْآخِرَةِ خَيْرٌ لِلَّذِينَ اتَّقَوْا أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿١٤٩﴾
 حَتَّىٰ إِذَا اسْتَيْسَسَ الرُّسُلُ وَظَنُّوا أَنَّهُمْ قَدْ كُذِّبُوا
 جَاءَهُمْ نَصْرٌ مِّنَّا فَانجَىٰ مِنْ شَوَاءٍ وَلَا يُرَدُّ بَأْسُنَا عَنِ الْقَوْمِ
 الْمُجْرِمِينَ ﴿١٥٠﴾ لَقَدْ كَانَ فِي قَصَصِهِمْ عِبْرَةٌ لِأُولِي الْأَلْبَابِ
 مَا كَانَ حَدِيثًا يُفْتَرَىٰ وَلَكِنْ تَصْدِيقَ الَّذِي بَيْنَ يَدَيْهِ
 وَتَفْصِيلَ كُلِّ شَيْءٍ وَهُدًى وَرَحْمَةً لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿١٥١﴾

104 使徒はクルアーンや教化に対し、どんな報酬もかれらに求めないし、クルアーンは全世界の人たちへの論しに他ならないので、かれらも理性を働かせれば、あなたを信じたはずだ。

105 諸天と地の間には、実に多くの印があるが、かれらはそれ(印)を見ているにも関わらず、結局それらの熟慮に背を向けて、見向きもしないのだ。

106 かれらの多くは、アッラーに多神を配することでしか、**かれ**を信じない。創造主であり供給者、生死をもたらす者なのに、**かれ**に偶像などを配する。あるいは子供がいるとか言い出す始末。

107 かれらは、押し返すことのできないアッラーの罰が突然に襲ってこない、または気づかない間に突然その時(最後の日)が来ないと、安心していられるのか。それだから不信仰のままなのか。

108 使徒よ、言え。これが人々を招いている、わたしの道であると。わたしとわたしに従う人たちは、明らかな証拠(洞察)の上に立って、アッラーへと人々を導き、招くのだ。アッラーに称賛あれ。**かれ**の荘厳さに相応しくないことや完璧さを否定するようなことから、**かれ**は無縁な御方なのだ。わたしは多神教徒ではない。わたしは、唯一の神を信奉する者たちの一人である。

109 **われら**があなた以前に遣わし、**われら**が啓示を受けた人たちは、すべて天使ではなく人間であり、町の住民であり、砂漠の民ではなかった。かれら住民は地上を旅して、かれら以前の人たちの末路が、どのようであったかを見なかったのか。かれらは使徒たちを嘘よばわりして滅ぼされたのである。アッラーを現世で畏れる人には、確かに来世の住まいこそ最善である。その方が良いと気が付かないのか、信奉するようにとの命令に従い、そしてアッラーに同列者を配することなどの禁じられたことからは遠ざかることで、あなた方は身を守らないのか。

110 遣わした使徒たちの敵に対しては、(アッラーの)懲罰はゆっくりとやって来るのであり、早急に下ることはない。その破滅が迫るまで、徐々にされるのである。使徒たちが希望を失って、敵が懲罰や報奨のことで使徒たちは人々に嘘をついたと思ひ込んだ後に、**われら**の助けがかれらに届き、不信仰者が懲罰を被ることとなる。こうして**われら**が望む人だけが救われ、罪深い人は**われら**の懲罰から逃れることはないのである。

111 確かにこれらの使徒とその民の物語の中には、ユースフとその兄弟の物語と同様に、健全な思慮ある人々への教訓がある。クルアーンにあるこれは捏造された物語ではなく、それ以前の(啓典)の確証であり、万事の詳細な解明であり、また信仰する人々への導きと慈悲なのだ。そしてかれらこそは、クルアーンから最も受益する人たちである。

本諸節の功德:

- 至高なるアッラーが特定の目的や統治のために、預言者に不可視界の知識の一部分を教えられるのは、その恩恵でもある。
- 唱道者は人の心まで変えることはできないし、あるいはかれらを信仰させることはできない。事実大半の者は、導かれた人たちではない。
- アッラーが創造主であるとの印と、あらゆるところに広がるアッラーの唯一性の証拠から背く人々に対する非難、叱責。
- 「これが人々を招いている、わたしの道である」(108節)には、人々への唱道の仕方が種々示されている。ア.方途の存在「アッラーに招いている」、イ.その方途は知識に基づいている「証拠(洞察)に拠って」、ウ.唱道者の存在「導き」、エ. 唱道される人の存在「わたしに従う人」である。

آيَاتُهَا

سُورَةُ الرَّعْدِ

نُوحِيَّتُهَا

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْمَرْءَ نَكَأَ ابْنُ أَيْمَتِكَ وَالَّذِي أَنْزَلَ إِلَيْكَ مِنْ رَبِّكَ الْحَقُّ
وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿١﴾ اللَّهُ الَّذِي رَفَعَ السَّمَوَاتِ
بِغَيْرِ عَمَدٍ تَرَوْنَهَا ثُمَّ أَسْتَوَى عَلَى الْعَرْشِ وَسَخَّرَ الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ
كُلٌّ يَجْرِي لِأَجَلٍ مُّسَمًّى يُدَبِّرُ الْأَمْرَ يُفَصِّلُ الْآيَاتِ لَعَلَّكُمْ
يَلْقَاءَ رَبَّكُمْ تَوْفِيقُونَ ﴿٢﴾ وَهُوَ الَّذِي مَدَّ الْأَرْضَ وَجَعَلَ فِيهَا رِوْاسِيَ
وَأَنْهَارًا وَمِنْ كُلِّ الشَّجَرِ جَعَلَ فِيهَا زَوْجِينَ شَجِينَ يَعْشَى إِلَيْلَ
الْهَارِءِ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يُفَكِّرُونَ ﴿٣﴾ وَفِي الْأَرْضِ
قِطْعٌ مَّتَّجِرَاتٌ وَجَدَّتْ مِنْ عَنَابٍ وَزَرْعٍ وَنَخِيلٍ صِنْوَانٌ
وَعِذْرٍ صِنْوَانٌ يُسْقَى بِمَاءٍ وَحِيدٍ وَتَفْضُلٌ بَعْضُهَا عَلَى بَعْضٍ
فِي الْأَكْلِ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿٤﴾ وَإِنْ تَعْجَبْ
فَعَجَبٌ قَوْلُهُمْ إِنْ ذَا كُنَّا تَرَابًا إِنْ نَأْتِنِي خَلْقٌ جَدِيدٌ
أُولَئِكَ الَّذِينَ كَفَرُوا بِرَبِّهِمْ وَأُولَئِكَ الْأَعْلَىٰ فِي
أَعْنَاقِهِمْ وَأُولَئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٥﴾

本章の趣旨:

アッラーの偉大さを示す表象についての説明を通し、啓示や預言者性を否定する人々への反論がなされる。

説明:

① アリフ・ラーム・ミーム・ラー 雌牛章の初めで、同じような成句について述べた。本章やクルアーン全体は、啓典の印であり、そこには不確かさはない。それは主からの啓示であるが、しかし人々の多くは、頑固さと自負心から信仰に入らない。

② アッラーこそは、あなた方の眼に映る柱もないまま、諸天を高く上げた方である。それからかれは玉座につき、太陽や月を従わせ、被造物に役立たされた。アッラーだけに知られる、ある定められた期限で運行されている。かれは意のままに万物を統御し、種々の印を詳しく述べる。そうすることであなた方が、最後の審判において自分の主と会うことを確信するためである。

③ かれこそは大地を広げ、そこにしっかりと山々を配置した御方である。それで人々を安定させ、人間や家畜、畑にとって必要な水を得られるような様々な川を置かれた。またかれはすべての果実を動物のように、一対(雌雄)にした。また夜でもって昼を覆う。実にこれらの中には、アッラーの創造に関して熟考する人々のための印と証がある。かれらこそ、そうした印や証の数々を役立てることのできる人々なのである。

④ また地上には、隣り合う地域にある、ブドウの園、穀物の畑、一つの根から二つの幹が出たナツメヤシや、そうでない別々の根を持つものがある。隣同士であり、同じ水が引かれても、われらはあるものを、他のものよりも良

い味にする。本当にこの中には、理性ある人々への印があるのだ。そういった人たちが、注意を払うからだ。

⑤ もしあなた(ムハンマド)が驚くとすれば、かれらの復活の拒否とその拒否の証拠として挙げられるものである。かれらは言う、わたしたちが死んで土となり、腐敗してバラバラになった後、それでもわたしたちは本当に新しく創造されるのか。これらはかれらの主を信じない人たちで、その死者復活の力も信じないのだ。かれらは地獄の仲間で、その中に永遠に住むのである。かれらはそこで消滅することもなく、懲罰の終わりもないのだ。

本諸節の功德:

- アッラーの能力の偉大さを確認し、支柱もない天空の創造と、その凄さと広大さに驚嘆する。
- アッラーの支配の強力で完璧なこと。小さな種子から巨大な樹木を育て、そして同じ水と太陽の光でもって、様々な果実や穀物が育つこと。それには多くの色や味わいもある。
- もともと無であったところが、小さな種子から巨大な樹木が育つことには、復活を拒否する不信仰者に対する反論が含まれている。人体の諸部分が地中でバラバラになっているのを集めなおして、存在したのから新たに再生することは、無から種子を抽出するよりは容易である。

وَيَسْتَعْجِلُونَكَ بِالسَّيِّئَةِ قَبْلَ الْحَسَنَةِ وَقَدْ خَلَتْ مِنْ
 قَبْلِهِمُ الْمَثَلَتُ وَإِنَّ رَبَّكَ لَذُو مَغْفِرَةٍ لِلنَّاسِ عَلَى ظَلْمِهِمْ
 وَإِنَّ رَبَّكَ لَشَدِيدُ الْعِقَابِ ﴿٦﴾ وَيَقُولُ الَّذِينَ كَفَرُوا لَوْلَا
 أَنْزَلَ عَلَيْهِ آيَةٌ مِنْ رَبِّهِ إِنَّمَا أَنْتَ مُنذِرٌ وَلِكُلِّ قَوْمٍ
 هَادٍ ﴿٧﴾ اللَّهُ يَعْلَمُ مَا تَحْمِلُ كُلُّ أُنْثَى وَمَا تَغِيضُ الْأَرْحَامُ
 وَمَا تَنْزِدُ أَدْوَكُلُّ شَيْءٍ عِنْدَهُ بِإِمْقَادٍ ﴿٨﴾ عَلِمَ الْغَيْبِ
 وَالشَّهَادَةِ الْكَبِيرِ الْمُتَعَالِ ﴿٩﴾ سَوَاءٌ مِنْكُمْ مَنْ
 أَسَرَ الْقَوْلَ وَمَنْ جَهَرَ بِهِ وَمَنْ هُوَ مُسْتَخْفٍ بِاللَّيْلِ وَسَارِبٌ
 بِالنَّهَارِ ﴿١٠﴾ لَهُ مَعْقِبَاتٌ مِنْ بَيْنِ يَدَيْهِ وَمِنْ خَلْفِهِ
 يَحْفَظُونَهُ مِنْ أَمْرِ اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ لَا يُغَيِّرُ مَا بِقَوْمٍ حَتَّى يُعَيِّرُوهُ
 مَا بِأَنْفُسِهِمْ وَإِذَا أَرَادَ اللَّهُ بِقَوْمٍ سُوءَ آفَلًا مَرَدَلَهُ وَمَا
 لَهُمْ مِنْ دُونِهِ مِنْ وَالٍ ﴿١١﴾ هُوَ الَّذِي يُرِيكُمْ الْبَرْقَ خَوْفًا
 وَطَمَعًا وَيُنشِئُ السَّحَابَ الثِّقَالَ ﴿١٢﴾ وَيَسِيحُ الرِّعْدُ بِحَمْدِهِ
 وَالْمَلَائِكَةُ مِنْ خِيفَتِهِ وَيُرْسِلُ الصَّوَاعِقَ فَيُصِيبُ بِهَا
 مَنْ يَشَاءُ وَهُمْ يُجَادِلُونَ فِي اللَّهِ وَهُوَ شَدِيدُ الْمِحَالِ ﴿١٣﴾

⑥使徒よ、多神教徒たちはあなたに、早く罰を下してみやよと言う。かれらは、アッラーが定めた恩恵が全うされる前に、それ(罰)がかれらに下されることを待ち遠しく思う。かれら以前にも、同様に嘘をついた共同体に罰が下ってきたというのに、かれらは教訓を得ないのか?使徒よ、あなたの主は人々の不正にも関わらず、寛容なお方。かれは、かれらが悔悟することを望まれるために、かれらへの罰をお急ぎにはならない。しかしかれの罰は、悔悟することなく不信仰にこだわる者たちには、強烈である。

⑦アッラーを否定する者たちは、頑迷にも背を向け続け、こう言う。「主はなぜ、ムーサーやイーサーに下したような印を、ムハンマドにも下さないのか?」使徒よ、あなたは人々にアッラーの罰を恐れさせる警告者に過ぎない。あなたにはアッラーから授かったもの以外の印はないのだ。あらゆる民には預言者がおり、かれらに真理の道を示し、導くのである。

⑧アッラーはすべての女性がお腹に宿すものと、それについてのすべてをご存知である。かれは増減・健康・病氣といった、子宮内で起こるすべてのことをご存知である。すべての物事はかれの御許で定められており、それを超えることも下回ることもない。

⑨アッラーは、被造物の感覚で捉えることの出来るものも出来ないものも、全てをご存知。かれはその属性・美称・行動において偉大であり、その本質・属性においてあらゆる被造物の上にある。

⑩かれは秘密も、密やかなものもご存知である。人々よ、あなたがたが言葉を潜めても、露わにしても、かれの知識においては同じこと。人目につかず夜の間に隠れるものも、昼の明るさの中で公(おおよけ)に行うものも、かれの知識においては同様なのだ。

⑪アッラーには、人間を次々と訪れる天使たちがいる。ある者たちは夜に、ある者たちは昼にやって来る。かれらはアッラーのご命令のもと人間を守るが、それもまたアッラーが定めた範囲内のこと。また、かれら天使たちは人間の言動を記録する。アッラーは、民が感謝すべき状態を自分たちで変えてしまわない限り、よい状態から好ましくない状態へと変えてしまったりしない。また、アッラーが民に対して破滅をお望みになれば、それを押しのけることが出来る者もない。人々よ、あなたがたにはアッラーの他、あなたがたの諸事を担ってくれる守護者はいないのだ。ゆえに降りかかる試練から逃れるため、かれにこそ避難せよ。

⑫人々よ、かれこそはあなたがたに稲妻を見せ、それによって雷鳴への恐怖と、雨への希望をあなたがたに与えるお方。かれこそは大雨を湛える重厚な雲をお作りになるお方である。

⑬雷はその主を称賛する。そして天使たちもまた、恐怖と、偉大に思う心から、その主を讃える。かれは、不信仰者たちがアッラーの唯一性に関して議論している間に、焼き尽くす雷をお望みのものへと送り、滅ぼしてしまう。アッラーは強力な力をお持ちの御方であり、お望みのことは必ず成し遂げられるのである。

本諸節の功德:

- アーダムの子孫の罪に対する、アッラーの赦し深さと寛容さ。かれらが使徒や預言者たちに対して高慢かつ挑発的であるのに、アッラーはかれらに糧や健康をお恵みになり、寛容にして下さる。
- 胎内の闇に関する、アッラーの知識。かれは膣の中に入った精子のことについてもご存じであり、その性別、その者に訪れる健康や病氣、糧、寿命、不幸な者となるか幸福な者となるかといったことについても、余すことなくご存知である。
- アッラーのアーダムの子孫に対する関心の高さ。人間を守ったり、その言動を記録したりする天使たちの存在の確証。
- 導きの原因となることを行ふたび、アッラーは僕をよりよい状態へと変えて下さる。つまり導きを獲得するには、導きに関する説明がなされ、それに従う必要がある。

لَهُ دَعْوَةَ الْحَقِّ وَالَّذِينَ يَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ لَا يَسْتَجِيبُونَ لَهُمْ شَيْءًا إِلَّا كَبْسِطَ كَفَيْتِهِ إِلَى الْمَاءِ لِيَبْلُغَ فَاهُ وَمَا هُوَ بِبَالِغِهِ وَمَا دَعَاةَ الْكَافِرِينَ إِلَّا فِي ضَلَالٍ ﴿١٤﴾ وَلِلَّهِ يَسْجُدُ مَنْ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ طَوْعًا وَكَرْهًا وَظِلْدَانٌ لَهُمْ بِالْعُدُوِّ وَالْأَصْبَالِ ﴿١٥﴾ قُلْ مَنْ رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ قُلِ اللَّهُ قُلْ أَفَاتَّخَذْتُمْ مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءَ لَا يَمْلِكُونَ لِأَنْفُسِهِمْ نَفْعًا وَلَا ضَرًّا قُلْ هَلْ يَسْتَوِي الْأَعْمَى وَالْبَصِيرُ أَمْ هَلْ تَسْتَوِي الظُّلُمَاتُ وَالنُّورُ أَمْ جَعَلُوا لِلَّهِ شُرَكَاءَ خَلَقُوا خَلْقَهُ فَتَشَبَّهُهُ الْخَلْقُ عَلَيْهِ قُلِ اللَّهُ خَلَقَ كُلَّ شَيْءٍ وَهُوَ الْوَاحِدُ الْقَهَّارُ ﴿١٦﴾ أَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَسَالَتْ أَوْدِيَةٌ بِقَدَرِهَا فَاحْتَمَلَ السَّيْلُ زَبَدًا رَابِيًا وَمِمَّا يُوقِدُونَ عَلَيْهِ فِي النَّارِ ابْتِغَاءَ حِلْيَةٍ أَوْ مَتَاعٍ زَبَدٌ مِثْلُهٗ وَكَذَلِكَ يَضْرِبُ اللَّهُ الْحَقَّ وَالْبَاطِلَ فَأَمَّا الزَّبَدُ فَيَذْهَبُ جُفَاءً وَأَمَّا مَا يَنْفَعُ النَّاسَ فَيَمْكُثُ فِي الْأَرْضِ كَذَلِكَ يَضْرِبُ اللَّهُ الْأَمْثَالَ ﴿١٧﴾ لِلَّذِينَ اسْتَجَابُوا لِرَبِّهِمْ الْحُسْنَى وَالَّذِينَ لَمْ يَسْتَجِيبُوا لَهُ وَلَوْ أَنَّ لَهُمْ مَائِي الْأَرْضِ جَمِيعًا وَمِثْلَهُ مَعَهُ لَافْتَدَوْا بِهِ ۗ أُولَٰئِكَ لَهُمْ سُوءُ الْحِسَابِ وَمَأْوَهُمْ جَهَنَّمُ وَبِئْسَ الْمِهَادِ ﴿١٨﴾

⑭ アッラーだけに唯一性への招きは厲し、誰もそこに共同しない。多神教徒たちがかれをよそに祈っている偶像は、祈りに応じてはくれない。かれらがそれらに祈る様は、喉を乾かせた者が水を飲もうと手を伸ばしても、届かないようなもの。偶像は害益を持たないのであり、そのようなものへの不信仰者の祈りは的外れなのだ。

⑮ 天地にあるすべてのものは、アッラーだけに従ってサジダ(平伏)する。信徒も不信仰者もそうなのだが、信徒は自発的にそうし、不信仰者は嫌々そうする。しかし天性は、自ら望んで主に従わせようとするのだ。すべての影ある被造物の影もまた、昼の始まりと終わりに、かれに服従する。

⑯ 使徒よ、アッラー以外のものをかれに並べて崇拜する不信仰者たちに、言え。「天地の創造主、それらを司る者は誰か?」使徒よ、言え。「アッラーがそれらの創造主であり、司る者。あなた方もそれを認めている。」使徒よ、かれらに言え。「あなた方はアッラー以外の、不能な守護者たちを選んだのか?それらは自分たちに益をもたらすことも、害を防ぐことも出来ないのに、自分以外のものに対してそうすることなど出来ようか?」使徒よ、言え。「英知に対して心眼の閉ざされた不信仰者と、心眼によって導かれる信徒は、同等だろうか?闇である不信仰と、光である信仰は同じだろうか?かれらはアッラーの創造において、アッラー同様の創造をする共同者があるとし、それでアッラーの創造と共同者の創造の見分けがつかなくなってしまったのか?」使徒よ、言え。「アッラーだけがすべての創造主で、共同者など一人もいない。かれは神性において唯一で、ただ一人崇拜に値する御方であり、すべてのものを制圧される御方である。」

⑰ アッラーは、虚妄が消え、真理は留まることのとたとえて、天から降る雨を挙げる。それはその大小に応じて谷を流れ、くずや泡を表面に湛える。また、別のたとえとして、人々が身にまとう装飾品を作るために、ある種の貴

金属に火をつけて溶かすことを挙げる。泡が表面に浮かぶように、その中の泡も浮かぶ。アッラーはこの二つで真理と虚妄のたとえを挙げるのだ。虚妄は、水に浮かぶくずや泡、金属を溶かすことで解離する錆(さび)のようなもの。真理は、飲用にでき、果実や草を実らせる澄んだ水、溶かした後に残って人の役に立つ金属のようなもの。このように真理と虚妄を明らかにするため、アッラーは人々に様々なたとえを挙げる。

⑱ 主の唯一性と服従へと呼びかけられ、それに応じた信徒たちには、よい報奨として天国がある。その呼びかけに応じなかった不信仰者たちは、もし地上で様々な種類の財産と、それと同様のものを更にもう一つ所有していたとしても、それらすべてを罰の免除のための償いとして施しただろう。呼びかけに応えなかった者たちはすべての悪行を清算され、その行き先は地獄となる。その寝床と定住先は、何と忌まわしいことか。

本諸節の功德:

- アッラー以外のものに対する多神教徒の祈りと、援助の請願という誤り。それは正しい手段に則っていないためであり、その状態を、水を飲もうと手を伸ばすが、それに届かずに水を飲めない状態にある者にたとえている。
- クルアーンにおける説明の方法として、たとえがある。それは具体的なもので抽象的なものを分かりやすくする。
- すべての被造物が、自発的に、あるいは嫌々と、アッラーにサジダすることの確認。嫌々であっても、天性がそうすることを義務づけるのである。

* أَفَمَنْ يَعْلَمُ أَنَّ نَزْلَ إِلَيْكَ مِنْ رَبِّكَ الْحَقُّ كَمَنْ هُوَ أَعْمَىٰ ۚ إِنَّمَا يَتَذَكَّرُ
 أُولُو الْأَلْبَابِ ﴿٣١﴾ الَّذِينَ يُوْفُونَ بِعَهْدِ اللَّهِ وَلَا يَنْقُضُونَ الْعَيْثَ
 ﴿٣٢﴾ وَالَّذِينَ يَصِلُونَ مَا أَمَرَ اللَّهُ بِهِ أَنْ يُوصَلَ وَيَخْشَوْنَ رَبَّهُمْ
 وَيَخَافُونَ سُوءَ الْحِسَابِ ﴿٣٣﴾ وَالَّذِينَ صَبَرُوا ابْتِغَاءَ وَجْهِ رَبِّهِمْ
 وَأَقَامُوا الصَّلَاةَ وَأَنْفَقُوا مِمَّا رَزَقْنَاهُمْ سِرًّا وَعَلَانِيَةً يَدْرُسُونَ
 بِالْحَسَنَةِ السَّيِّئَةَ أُولَئِكَ لَهُمْ عُقْبَى الدَّارِ ﴿٣٤﴾ جَنَّتٌ عَدْنٍ يَدْخُلُونَهَا
 وَمَنْ صَلَحَ مِنْ آبَائِهِمْ وَأَزْوَاجِهِمْ وَذُرِّيَّتِهِمْ وَالْمَلَائِكَةُ يَدْخُلُونَ
 عَلَيْهِمْ مِنْ كُلِّ بَابٍ ﴿٣٥﴾ سَلَّمَ عَلَيْهِمْ بِمَا صَبَرُوا فَنِعْمَ عُقْبَى الدَّارِ ﴿٣٦﴾
 وَالَّذِينَ يَنْقُضُونَ عَهْدَ اللَّهِ مِنْ بَعْدِ مِيثَاقِهِ وَيَقْطَعُونَ
 مَا أَمَرَ اللَّهُ بِهِ أَنْ يُوصَلَ وَيُفْسِدُونَ فِي الْأَرْضِ أُولَئِكَ لَهُمُ
 الْعَذَابُ ۖ وَلَهُمْ سُوءُ الدَّارِ ﴿٣٧﴾ اللَّهُ يَسْطُرُ الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ
 وَيَقْدِرُ ۗ وَفَرِحُوا بِالْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَمَا الْحَيَاةُ الدُّنْيَا فِي الْآخِرَةِ إِلَّا
 مَتَاعٌ ﴿٣٨﴾ وَيَقُولُ الَّذِينَ كَفَرُوا لَوْلَا نُزِّلَ عَلَيْهِ آيَةٌ مِنْ رَبِّهِ قُلْ
 إِنَّ اللَّهَ يُضِلُّ مَنْ يَشَاءُ وَيَهْدِي إِلَيْهِ مَنْ أُنَابَ ﴿٣٩﴾ الَّذِينَ آمَنُوا
 وَتَطْمَئِنُّ قُلُوبُهُمْ بِذِكْرِ اللَّهِ أَلَا بِذِكْرِ اللَّهِ تَطْمَئِنُّ الْقُلُوبُ ﴿٤٠﴾

⑲使徒よ、アッラーがあなたに下したものを疑いのない真理と知り、信じ、アッラーに応える者と、盲目で不信仰でアッラーに応えない者は同じではない。正常な理性の持ち主だけが、そこから教訓を得る。

⑳アッラーに応える者とは、アッラーに対しても人に対しても約束を守り、契約を破らない者。

㉑アッラーがつなぐように命じる近親の絆を結び、主を恐れてそのご命令と禁止事項を守り、すべての行った罪をアッラーに清算されることを危惧する者。清算の際に議論される者は、破滅するのである。

㉒また、アッラーへの服従と、自分が気に入ることでもそうではないことでも、そのために忍耐し、アッラーのお喜びを求めて罪を犯すことを我慢する者。礼拝を完全な形で、授かった財産から義務のものを施すだけでなく任意の施しも行い、時には人目を恐れて密やかに、また時には他人への奨励のために公(おおやけ)に施す者。他人から悪くされても、善行で返す者。これらの特徴を持つ者たちには審判の日、よい結末がある。

㉓このよい結末とは、天国。かれらはそこで永遠の安寧の中に過ごす。また更なる恩恵として、正しかった父母ら、配偶者、子供らがかれらと共にそこに入る。かれらとの出会いは更なる安堵をもたらす。また天使たちは天国の住居のあらゆる戸口から、祝福をしにやって来る。

㉔天使たちは「あなたがたに平安あれ」と挨拶する。つまり「アッラーへの服従、辛い定め、罪への抑制における忍耐のため、あなたがたは害悪から無事となった。」あなたがたの行き着いた世界は、何と素晴らしいことか。

㉕他方、アッラーとの厳粛な契約を破り、アッラーがつなぐように命じた近親の絆を断ち、至高のアッラーに背いて地上を退廃させる者たちは、不幸な者たち。かれらはアッラーのお慈悲から遠ざけられ、地獄という悪い結末がある。

㉖アッラーはお望みの者の糧を増やし、減らされる。豊かさは、幸福やアッラーからの寵愛の印ではない。貧しさが不幸の印というわけでもない。不信仰者たちは現世の生活に喜び、そこに安住しているが、現世の生活は来世に比べれば消え行くわずかな楽しみにすぎない。

㉗アッラーとその印を否定する者たちは、言う。「ムハンマドが言っていることの正しさを示す印が、アッラーから下らないのか? そうすればわたしたちは信じるのに。」使徒よ、言え。「アッラーはお望みの者をその公正さによって迷わせ、悔悟する者をその恩寵によって導かれる。導きは印と関連づけるほど、かれらの思い通りになるわけではない。」

㉘アッラーが導いた者たちこそは、信仰した者たち。かれらの心はアッラーへの賛美と唱念、クルアーンの読誦と拝聴等の様々な唱念で安らぐ。アッラーの唱念によってのみ心は安らぐのであり、かれはそうされるにふさわしいのだ。

本諸節の功德:

- 近親の絆、アッラーへの恐れ、約束の遵守、忍耐、施し、悪行を善行で返すことなど、天国に入る理由となる徳の勧め。その逆のことに對する警告。
- 糧はアッラーが司る。アッラーからの糧の多寡のために、人は悲喜すべきではない。それは人に対するアッラーのお喜びや怒りを表すものではないためである。
- 多神教徒たちがその実現を要求するような印や奇跡は、必ずしも導きと関連があるわけではない。
- 心にもたらされる安心は、信徒に対するクルアーンの効果の一つである。

الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ طُوبَىٰ لَهُمْ وَحَسَنُ مَقَابِلِهِمْ
 كَذَلِكَ أَرْسَلْنَاكَ فِي أُمَّةٍ قَدْ خَلَتْ مِن قَبْلِهَا أُمَمٌ لَّمْ تَنَالُوا
 عَلَيْهِمُ الَّذِي أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ وَهُمْ يَكْفُرُونَ بِالرَّحْمَنِ قُلْ هُوَ رَبِّي
 لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ عَلَيْهِ تَوَكَّلْتُ وَإِلَيْهِ مَتَابِ ﴿٣٥﴾ وَلَوْ أَنَّ قَوْمَنَا
 سِيرَتِ بِهِ الْجِبَالَ أَوْ قَطَعَتْ بِهِ الْأَرْضَ أَوْ كَفَرُوا بِهِ الْمَوْتَىٰ
 بَلْ لِلَّهِ الْأَمْرُ جَمِيعًا أَفَلَمْ يَأْتِ بَشِيرًا مِّنَ الَّذِينَ آمَنُوا أَن لَّوِثْنَا
 اللَّهُ لَهَدَى النَّاسَ جَمِيعًا وَلَا نَزَّلُ الَّذِينَ كَفَرُوا نَصِيبُهُمْ
 يَمَّا صَبَعُوا فَرِجَةً أَوْ تَحُلُّ قَرْيَةً مِّن دَارِهِمْ حَتَّىٰ يَأْتِيَ وَعْدُ
 اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ لَا يُخْلِفُ الْمِيعَادَ ﴿٣٦﴾ وَلَقَدْ أَسْتَهْزَيْتَ بِرُسُلٍ مِّن
 قَبْلِكَ فَأَمَلَيْتُ لِلَّذِينَ كَفَرُوا ثُمَّ أَخَذْتَهُمْ فَكَيْفَ كَانَ
 عِقَابِ ﴿٣٧﴾ أَفَمَن هُوَ قَائِمٌ عَلَىٰ كُلِّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ وَجَعَلُوا
 لِلَّهِ شُرَكَاءَ قُلْ سَمُّوهُمْ أَمْ تُنَادُونَهُم بِمَا لَا يَعْلَمُونَ فِي الْأَرْضِ أَمْ
 يَظَاهِرُونَ الْقَوْلَ بَلْ زَيْنٌ لِلَّذِينَ كَفَرُوا مَكْرُهُمْ وَصُدُّوا عَنِ
 السَّبِيلِ وَمَن يُضِلِلِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِن هَادٍ ﴿٣٨﴾ لَهُمْ عَذَابٌ فِي الْحَيَاةِ
 الدُّنْيَا وَلَعَذَابُ الْآخِرَةِ أَشَقُّ وَمَا لَهُم مِّنَ اللَّهِ مِن وَّاقٍ ﴿٣٩﴾

③⑤ アッラーを信じ、かれへと近づける正しい行いをする者たちには、来世でよい生活がある。かれらには、よい結末としての天国がある。

③⑥ 使徒よ、先代の使徒たちを各々の社会に遣わしたように、われらはあなたをあなたの社会に遣わした。それは、あなたに下されたクルアーンをかれらに読み聞かせるため。それだけであなたの正直さの十分な証明なのだ。かれらは慈悲あまねきお方(アッラー)を否定し、かれに他のものを並べるがゆえに、かれの印も否定している。使徒よ、かれらに言え。「あなたがたが他のものを並べている慈悲あまねきお方は、わたしの主であり、他に崇拝すべきものがないお方。わたしはかれにすべての物事を任せ、かれに悔悟する。」

③⑦ 諸啓典の特性が、山を動かし、大地を裂いて河川や泉を出現させ、その読誦によって死人を生き返らせることだったとしたら、このクルアーンは明白な証拠であり偉大な効果があるのだ。それはかれらの心が敬虔だったとしたらなのだが、かれらは否定者なのである。奇跡やその他のすべての物事は、アッラーに属する。アッラーを信じる者たちは、もしかれが印を示すことなしにすべての者の導きをお望みなら、そうされたことを知らないのか?しかし、かれはそうお望みにはならなかった。アッラーを否定する者たちには不信仰と罪のため、かれら、あるいはかれらの住まいの近くに厳しい災難が下り続ける。それは続けざまの懲罰というアッラーの約束が訪れるまで続く。アッラーは既に約束していることの時期が来たら、それを必ず遂行する。

③⑧ あなたは最初に嘘つき呼ばわりされ、嘲笑された使徒ではない。使徒よ、あなた以前の社会はその使徒を蔑み、嘘つき呼ばわりしたのだ。使徒たちを否定した者たちは、われがかれらを滅ぼさないと思うまで猶予され、その後様々な罰で襲われたのである。かれらへのわが罰はどのようなものだったか?それは厳しいものだった。

③⑨ すべての被造物の糧の保護、すべての者の行いの監視、それに対する報いを行うお方が崇拝されるにふさわしいのか?それとも崇拝されるに値しない、これらの偶像か?不信仰者たちはそれらを不正と嘘により、アッラーの共同者とした。使徒よ、言え。「その主張が本当なら、あなたがたがアッラーに並べて崇拝している共同者らの名前を告げてみよ。それともあなたがたは、アッラーのご存知でない地上での共同者らについて、かれに告げるといふのか?それとも実質のない表面的な言葉を語っているだけなのか?」いや、悪魔が不信仰者たちに悪い振る舞いを美しく見せて、アッラーを否定させ、正しい道から逸らせたのだ。アッラーが正しい道から逸らせた者を導く者はない。

③⑩ かれらには、現世において信仰者たちから殺されたり捕囚されたりするといった罰がある。しかし来世での罰は、現世での罰よりも激しく重い。そこには過酷さと永遠があり、審判の日にかれらをアッラーの罰から守ってくれる者はない。

本諸節の功德:

- すべての啓典は導きのために下されたというのが原則であり、印を下すためではない。アッラーは印をいつでも好きなように下す。
- 預言者に対するアッラーの慰め。多神教徒から嘘つき呼ばわりされることは、過去の預言者たちもされていたことだという教示。
- 悪魔は罪や退廃といった行いを美しいものに見せることで、人を迷わせる。

مَثَلُ الْجَنَّةِ الَّتِي وَعِدَ الْمُتَّقُونَ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ
 أَكْمَلُهَا دَائِمٌ وَظُلُّهَا تِلْكَ عِغْبَى الَّذِينَ اتَّقَوْا وَعِغْبَى
 الْكَافِرِينَ النَّارُ ﴿٣٥﴾ وَالَّذِينَ آتَيْنَاهُمُ الْكِتَابَ يَفْرَحُونَ
 بِمَا أَنْزَلْنَا إِلَيْكَ وَمِنَ الْأَحْزَابِ مَنْ يُنْكِرُ بَعْضَهُ وَقُلْ إِنَّمَا
 أُمِرْتُ أَنْ أَعْبُدَ اللَّهَ وَلَا أُشْرِكَ بِهِ إِلَيْهِ أَدْعُوا وَإِلَيْهِ مَقَابِ
 ﴿٣٦﴾ وَكَذَلِكَ أَنْزَلْنَاهُ حُكْمًا عَرَبِيًّا وَلَئِنْ اتَّبَعْتَ أَهْوَاءَهُمْ بَعْدَ
 مَا جَاءَكَ مِنَ الْعِلْمِ مَا لَكَ مِنَ اللَّهِ مِنْ وَلِيٍّ وَلَا وَاقٍ ﴿٣٧﴾ وَلَقَدْ
 أَرْسَلْنَا رُسُلًا مِنْ قَبْلِكَ وَجَعَلْنَا لَهُمْ أَرْوَاجًا وَذُرِّيَّةً وَمَا كَانَ
 لِرَسُولٍ أَنْ يَأْتِيَ بِكَايِدَةٍ إِلَّا بِإِذْنِ اللَّهِ لِكُلِّ أَجَلٍ كِتَابٍ ﴿٣٨﴾
 يَمْحُو اللَّهُ مَا يَشَاءُ وَيُنَبِّئُ وَعِنْدَهُ أُمُّ الْكِتَابِ ﴿٣٩﴾ وَإِنْ مَا
 نُرِيدُكَ بَعْضَ الَّذِي نَعِدُهُمْ أَوْ نَتَوَفَّيْكَ فَإِنَّمَا عَلَيْكَ الْبَلْغُ
 وَعَلَيْنَا الْحِسَابُ ﴿٤٠﴾ أَوْ لَمْ يَرَوْا أَنَا نَأْتِي الْأَرْضَ نَنْقُصُهَا
 مِنْ أَطْرَافِهَا وَاللَّهُ يَحْكُمُ لَا مُعَقِّبَ لِحُكْمِهِ وَهُوَ سَرِيعُ
 الْحِسَابِ ﴿٤١﴾ وَقَدْ مَكَرَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ فَلِلَّهِ الْمَكْرُ جَمِيعًا
 يَعْلَمُ مَا تَكْسِبُ كُلُّ نَفْسٍ وَسِعَعِلْمُ الْكُفْرِ لِمَنْ عِغْبَى الدَّارِ ﴿٤٢﴾

35) アッラーのご命令と禁止事項を守る敬虔な者たちに約束された天国は、その邸宅と木々の下から河川が流れ、現世とは違って常なる果実がある。影は消えることがなく減ることもない。それが、アッラーのご命令と禁止事項を守る敬虔な者たちの行き先。不信仰者の行き先は永遠の地獄である。

36) 使徒よ、**われら**が律法書を受けたユダヤ教徒たちと、福音書を受けたキリスト教徒たちは、あなたに下されたものとかれらに下されたものが部分的に一致しているため、喜ぶ。しかしかれらの一派には、あなたに下されたものがかれらの私欲と一致しなかったり、かれらを改ざん者と描写したりしているために、その一部を否定する。使徒よ、言え。「アッラーは**かれ**だけを崇拜し、**かれ**に何も並べないよう、わたしに命じた。わたしは**かれ**だけに祈る。**かれ**だけがわたしの帰り場所。律法書も福音書も同様に教える。」

37) 使徒よ、**われら**は過去に各民族の言葉で諸啓典を下したのと同様に、真理を明らかにするアラビア語の決定的な言葉として、あなたにクルアーンを啓示した。あなたにアッラーの知識が下された後、啓典の民の私欲と合わない部分を消すという、かれらの欲望に従ったとすれば、アッラーを差し置いてあなたの諸事を見守る守護者も、敵に対する援助者も、**かれ**の罰を阻んでくれる者も、あなたにはいなくなる。

38) 使徒よ、**われら**はあなた以前にも使徒たちを人間として遣わした。あなたは特異な使徒などではない。**われら**は他の人間同様、かれらに妻や子供を与えたのであり、結婚もせず子供も作らない天使にしたのではない。あなたもそのような人間の使徒なのに、多神教徒たちはなぜ驚くのか？使徒はアッラーのお許しなく、印をもらすことはない。アッラーが定めたことはすべて、書のなかに記されている。期限は早まることも遅れることもない。

39) 善悪や幸福・不幸など、アッラーはお望みのものを取り消し、お望みのものを確定する。**かれ**の御許には守護された碑板(ひばん)があり、それがこれらすべての典拠である。取り消しても確定でも、起こることはすべて、その内容と一致する。

40) 預言者よ、もし**われら**があなたの他世界前に、かれらに約束した罰の一部をあなたに見せるにせよ、あるいはその前にあなたが亡くなるにせよ、あなたは伝えるべきことを伝えるだけなのだ。かれらに報いたり、かれらを清算したりするのは**われら**の仕事である。

41) 彼ら不信仰者たちは、**われら**がイスラームを広め、ムスリムが勝利を得ることによって、不信仰の土地を減らしていくのを見ないのか？アッラーは僕たちに対し、お望み通りに定める。**かれ**の決めたことを変える者などいない。**かれ**は清算が早いお方であり、一日で最初の者から最後の者まで清算してしまう。

42) 過去の民は預言者たちに悪巧みをし、かれらが伝えることを嘘よばりした。しかしかれらには何も出来なかった。アッラーの采配こそが真の采配であり、**かれ**は被造物の行いすべてをご存知であり、わからないことは何一つない。その時、これら信仰を拒否した者たちはアッラーを信じなかったことの間違いの大きさを知り、信徒たちがいかに正しかったかを知るのだ。こうして信徒は天国とよい結末を手にする。

本諸節の功德:

- 流れる河川、尽きない糧と影といった天国の特性の描写による、天国への奨励。
- 知識を得た後に欲望を追求することの危険性。それはアッラーによる罰の原因である。
- 使徒たちは人間であり、妻も子孫もある。預言者も彼ら同様で、特異なわけではない。

وَيَقُولُ الَّذِينَ كَفَرُوا لَسْتَ مُرْسَلًا قُلْ كَفَىٰ بِاللَّهِ شَهِيدًا
بَيْنِي وَبَيْنَكُمْ وَمَنْ عِنْدَهُ عِلْمُ الْكِتَابِ ﴿٤٦﴾

الْبَاقِي

سُورَةُ إِبْرَاهِيمَ

مَرْثِيهَا

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الرَّ كِتَابٌ أَنْزَلْنَاهُ إِلَيْكَ لِتُخْرِجَ النَّاسَ مِنَ الظُّلُمَاتِ
إِلَى النُّورِ بِإِذْنِ رَبِّهِمْ إِلَى صِرَاطٍ الْعَزِيزِ الْحَمِيدِ ﴿١﴾
اللَّهُ الَّذِي لَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَوَيْدٌ
لِلْكَافِرِينَ مِنْ عَذَابٍ شَدِيدٍ ﴿٢﴾ الَّذِينَ يَسْتَجِبُونَ
الْحَيَاةَ الدُّنْيَا عَلَى الْأَخْرَاقِ وَيَصُدُّونَ عَنْ سَبِيلِ
اللَّهِ وَيَبْغُونَهَا عِوَجًا أُولَئِكَ فِي ضَلَالٍ بَعِيدٍ ﴿٣﴾ وَمَا
أَرْسَلْنَا مِنْ رَسُولٍ إِلَّا بِلِسَانِ قَوْمِهِ لِيُبَيِّنَ لَهُمْ
فِيضِلُّ اللَّهُ مَنْ يَشَاءُ وَيَهْدِي مَنْ يَشَاءُ وَهُوَ الْعَزِيزُ
الْحَكِيمُ ﴿٤﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا مُوسَىٰ بِآيَاتِنَا أَنْ أَخْرِجْ
قَوْمَكَ مِنَ الظُّلُمَاتِ إِلَى النُّورِ وَذَكَرْنَاهُمْ بِآيَاتِنَا
اللَّهُ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِكُلِّ صَبَّارٍ شَكُورٍ ﴿٥﴾

④ 不信仰者たちは言う。「ムハンマドよ、あなたはアッラーから遣わされた者ではない。」使徒よ、言え。「わたしがあなたがたに遣わされたことの証人は、アッラーと、わたしの描写がある啓典についての知識がある者たちだけで十分。」アッラーが正しさを証言する者に対しては、誰が嘘よばわりしても無駄である。

14. イブラーヒーム章

マッカ啓示

本章の趣旨:

説明と伝達による使徒たちへの励ましと、かれらに従おうとしない者たちへの懲罰による警告。

説明:

① 「アリフ・ラーム・ラー」については、雌牛章冒頭に同様の節の説明あり。使徒よ、このクルアーンはあなたに下された啓典で、人々を不信仰と無知と迷いから、信仰と知識とイスラームの宗教への導きへ至高のアッラーのご意志とお助けによって救い出すもの。イスラームこそは偉大で、全てにおいて賛美されるアッラーの道。

② アッラーにこそ天地にある全ての主権は属する。かれこそは、何ものをも並べることなく崇拜されるに値する唯一のお方。不信仰者たちは強烈な罰を受けるだろう。

③ 不信仰者たちは現世とそこにある束の間の享楽を、来世とそこにある永遠の享楽よりも好む。かれらは人々をアッラーの道から逸らし、真理と正しさから外れた曲がった道を求める。このような特徴の者たちは、真理から遠く離れた迷いの中にある。

④ われらが使徒を遣わす時には必ず、民の言語を話す者を遣わした。それはかれらがアッラーから伝えることが、理解しやすくするため。われらは人々にアッラーの信仰を強制させるために、かれらを遣わしたのではない。アッラーはその公正さによってお望みの者を迷わせ、その恩寵によってお望みの者を導かれる。かれは誰にも制圧されない偉大なお方であり、創造と采配において英知あふれるお方。

⑤ われらはムーサーを遣わした。そしてかれがアッラーから遣わされた者であり、正直であることを証明する印で、かれを援助した。われらはかれに、民を不信仰と無知から信仰と知識へと救い出すことを命じ、かれらが恩恵を授かったアッラーの日々を思い出させるよう命じた。それらの日々には、アッラーの唯一性と偉大な力、信仰者に対する恩恵という明証があるのだ。これが役立つのは、アッラーへの服従行為において忍耐強く、かれの恩恵に対して感謝深い者である。

本諸節の功德:

- クルアーンが啓示された目的は、人々を虚妄の闇から真理の光へと導き出すことである。
- 使徒はその民の言葉を話す。それがより理解しやすく、かつ受け入れられやすいからである。
- 使徒の役目は、闇から光へと人々を救い出すため指導することに要約される。

وَإِذْ قَالَ مُوسَى لِقَوْمِهِ أَذْكُرُوا نِعْمَةَ اللَّهِ عَلَيْكُمْ إِذْ أَنْجَاكُمْ مِنْ آلِ فِرْعَوْنَ يَسُومُونَكُمْ سُوءَ الْعَذَابِ وَيَدَّبُّوْنَ أبنَاءَكُمْ وَيَسْتَحْيُونَ نِسَاءَكُمْ وَفِي ذَٰلِكُمْ بَلَاءٌ مِنْ رَبِّكُمْ عَظِيمٌ ﴿٦﴾ وَإِذْ تَأَذَّنَ رَبُّكُمْ لَئِن شَكَرْتُمْ لَأَزِيدَنَّكُمْ وَلَئِن كَفَرْتُمْ إِنَّ عَذَابِي لَشَدِيدٌ ﴿٧﴾ وَقَالَ مُوسَى إِن تَكْفُرُوا أَنْتُمْ وَمَنْ فِي الْأَرْضِ جَمِيعًا فَإِنَّ اللَّهَ لَغَنِيٌّ حَمِيدٌ ﴿٨﴾ أَلَمْ يَأْتِكُمْ نَبُؤُا الَّذِينَ مِنْ قَبْلِكُمْ قَوْمِ نُوحٍ وَعَادٍ وَثَمُودَ وَالَّذِينَ مِنْ بَعْدِهِمْ لَا يَعْلَمُهُمْ إِلَّا اللَّهُ جَاءَتْهُمْ رُسُلُهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ فَرَدُّوا أَيْدِيَهُمْ فِي أَفْوَاهِهِمْ وَقَالُوا إِنَّا كَفَرْنَا بِمَا أُرْسِلْتُمْ بِهِ وَإِنَّا لَفِي شَكِّ مِمَّا تَدْعُونَنَا إِلَيْهِ مَرْيَبٌ ﴿٩﴾ * قَالَتْ رُسُلُهُمْ أَفِي اللَّهِ شَكٌّ فَاطِرِ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يَدْعُوكُمْ لِيَغْفَرَ لَكُمْ مِنْ ذُنُوبِكُمْ وَيُؤَخِّرَكُمْ إِلَىٰ أَجَلٍ مُّسَمًّى قَالُوا إِنْ أَنْتُمْ إِلَّا بَشَرٌ مِثْلُنَا تُرِيدُونَ أَنْ تَصُدُّونَا عَمَّا كَانَ يَعْبُدُ آبَاؤُنَا فَأْتُونَا بِسُلْطَانٍ مُّبِينٍ ﴿١٠﴾

سورة
الجزء
الثاني

⑥使徒よ、ムーサーが主の命令に従って、イスラエールの子らの民にアッラーの恩恵を思い出させつつ、こう言った時のこと。「民よ、アッラーがあなたがたをフィルアウンの一族とその抑圧から救った時の、あなたがたへの恩恵を思い出せ。かれらはあなたがたを手ひどく罰した。フィルアウンの王権を揺るがせないよう、あなたがたの男児は殺し、女兒は辱しめるために生かしておいた。かれらのこの行いは、あなたがたの忍耐を試す偉大な試練だった。アッラーはフィルアウンの一族の抑圧から救い出すことで、あなたがたの試練に対する忍耐に報いたのだ。」

⑦ムーサーは言った。「主があなたがたにこう宣言した時のことを思い出せ。“あなたがたが授かったそれらの恩恵に感謝するなら、アッラーはそれを更に増やして下さい。しかし感謝せずに恩知らずになれば、そのような者に対するアッラーの罰は激しい。”」

⑧ムーサーは言った。「民よ、あなたがたと、地上の全ての者が不信仰だったとしても、あなたがたの不信仰は自分自身を害するだけ。アッラーはご自身だけで十全であり、その本質だけで賛美されるべきお方。信徒の信仰心がかれを益することも、不信仰者の不信仰がかれを害することも無い。」

⑨不信仰者たちよ、ヌーフの民、フードの民アード、サーリフの民サムード、あるいはその後に出現した、あなたがた以前に(真理を)嘘よばりした民が滅亡した知らせは、あなたがたに届かなかったのか?その数は多く、数え上げることが出来るのはアッラーのみ。使徒たちが明証と共にかれらのもとにやって来たが、かれらは使徒たちへの怒りから口を手をやってかみつ、言った。「わたしたちはあなたがたが伝えるものを、否定する。あなたがたが招いているものに、疑念がある。」

⑩使徒たちは言った。「アッラーだけを崇拜することに疑念があるのか?かれは天地の創造主であり、先例のない形でそれらを存在させたお方。かれは、あなたがたの過去の罪を抹消し、現世の生活の決められた寿命を全うするまで猶予を与えるべく、かれへの信仰へと呼びかける。」民は言った。「あなたがたはわたしたちと同じ人間で、わたしたちより優れているわけではない。あなたがたはわたしたちの祖先が崇拜していたものへの崇拜から、わたしたちを背けようとしている。あなたがたがアッラーからの使徒であることの正しさを示す明証を見せてみよ。」

本諸節の功德:

- アッラーの恩恵を思い出させることによる戒めは、特にそれが敵への勝利や救いといった大きな恩恵だった場合、布教の一手段となる。
- 感謝に対する更なる恩恵の約束はアッラーの寵愛だが、恩知らず者には厳しい警告がある。
- 人の不信仰がアッラーを害することなどはなく、人の信仰がかれを益することも無い。かれは十全で、その本質において讃えられるべきお方。

قَالَتْ لَهُمْ رُسُلُهُمْ إِنْ نَحْنُ إِلَّا بَشَرٌ مِّثْلُكُمْ وَلَكِنَّ اللَّهَ
يُمْنُ عَلَىٰ مَنْ يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ وَمَا كَانَ لَنَا أَنْ نَأْتِيَكُمْ
بِسُلْطَنِ إِلَّا بِإِذْنِ اللَّهِ وَعَلَىٰ اللَّهُ فَلْيَتَوَكَّلِ الْمُؤْمِنُونَ
﴿١١﴾ وَمَا لَنَا أَلَّا نَتَوَكَّلَ عَلَىٰ اللَّهِ وَقَدْ هَدَانَا سُبُلَنَا وَلَنْ يُضِلَّنَا
عَلَىٰ مَا أَذَيْتُمُونَا وَعَلَىٰ اللَّهُ فَلْيَتَوَكَّلِ الْمُتَوَكِّلُونَ
﴿١٢﴾ وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا الرُّسُلُ هُمْ كُنُوزُكُمْ مِنْ أَرْضِنَا
أَوْ لَعْنَةُ رَبِّ فِي مِلَّتِنَا فَأَوْحَىٰ إِلَيْهِمْ رَبُّهُمْ لَنْهَلِكَنَّ
الظَّالِمِينَ ﴿١٣﴾ وَلَسْكَنتُكُمْ الْأَرْضَ مِنْ بَعْدِهِمْ
ذَٰلِكَ لِمَنْ خَافَ مَقَامِي وَخَافَ وَعِيدِ ﴿١٤﴾ وَأَسْتَفْتَحُوا
وَخَافَ كُلُّ جَبَّارٍ عَزِيدِ ﴿١٥﴾ مِنْ وَرَائِهِ جَهَنَّمُ وَيُسْقَىٰ
مِنْ مَاءٍ صَدِيدٍ ﴿١٦﴾ يَتَجَرَّعُهُ وَلَا يَكَادُ يُسِيغُهُ وَيَأْتِيهِ
الْمَوْتُ مِنْ كُلِّ مَكَانٍ وَمَا هُوَ بِمَيِّتٍ وَمِنْ وَرَائِهِ
عَذَابٌ غَلِيظٌ ﴿١٧﴾ مَثَلُ الَّذِينَ كَفَرُوا بِرَبِّهِمْ أَعْمَالُهُمْ
كَرَمَادٍ اشْتَدَّتْ بِهِ الرِّيحُ فِي يَوْمٍ عَاصِفٍ لَا يَقْدِرُونَ
مِمَّا كَسَبُوا عَلَىٰ شَيْءٍ ذَٰلِكَ هُوَ الضَّلَالُ الْبَعِيدُ ﴿١٨﴾

⑪使徒たちは民に言った。「わたしたちはあなた方同様、人間だ。それは否定しないが、わたしたちが全てにおいて同等なわけではない。アッラーはお望みの者に特別な恩恵を授け、使徒たちをお選びになる。あなた方が求める証拠は、アッラーがお望みにならなければ、わたしたちがもたらすことは出来ない。それができるのはアッラーだけである。信者は全ての物事において、アッラーだけを頼みとすべきなのだ。

⑫わたしたちがかれに委ねない理由があるだろうか？かれはわたしたちを最も正しい道に導き、それを明らかにした御方。わたしたちは嘘呼ばわりや嘲笑といったあなた方からの嫌がらせに、必ずや耐え忍ぶだろう。信者は全ての物事において、アッラーだけを頼みとすべきなのだ。」

⑬民の不信仰者たちは議論に対抗できなくなり、言った。「あなたがたを町から追い出してやる。あるいは、わたしたちの宗教に戻って来い。」アッラーは使徒たちを励まし、こう啓示した。「アッラーとその使徒たちを否定した不信仰者たちを、滅ぼそう。」

⑭使徒とその追従者たちよ、われらはかれらを滅ぼした後、あなたがたをその地に住ませよう。嘘呼ばわりした不信仰者たちの滅亡と、かれらの滅亡後に使徒たちと信徒たちがその地に居住することの知らせは、わが偉大さと監視を意識し、罰による警告を恐れた者たちのため。」

⑮使徒たちは主に、敵への援助を求めた。真理が明白になった後、それに従わず頑固で高慢だった全ての者は損失した。

⑯審判の日、この高慢な者の前には地獄があり、かれを見守っている。かれには地獄の民の身体から流れる膿(うみ)が飲まれ、喉の渇きを癒せない。かれは喉の渇きその他様々な罰で、罰され続ける。

⑰無理矢理少しずつ飲もうとするが、その苦さ、熱さ、臭さで飲み込めない。味わう罰の厳しさのため、あらゆる方面から死がやって来るが、死んで楽になることもない。生きて罰を味わい続け、更なる厳しい罰がかれを待ち受ける。

⑱施し、善行、弱者への慈悲など、不信仰者が行う善行は、風の強い日に強風にさらされて飛ばされ、跡形もなく四方に散る灰のよう。不信仰者の善行もその不信仰により飛び散り、審判の日には無益になる。信仰によらない行いは、真理の道から遠く迷い去っている。

本諸節の功德:

- 預言者も使徒もアーダムの子孫であり、人間である。しかしアッラーは使徒とするためにかれらをその中から選び、特別にする。
- 変化を望む布教者は、多くの困難に直面することを覚悟する必要がある。つまり追放、拒否、言動による害悪などである。
- 布教者や正しい人々は、勝利や大地の相続を約束されている。
- 不信仰者の善行はその不信仰のために、無意味かつ無効となる。

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ إِنْ يَشَاءُ يُدْهِبْكُمْ وَيَأْتِ بِخَلْقٍ جَدِيدٍ ﴿١٦﴾ وَمَا ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ بِعَزِيزٍ ﴿١٧﴾ وَبَرَزُوا لِلَّهِ جَمِيعًا فَقَالَ الضُّعَفَاءُ لِلَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا إِنَّا كُنَّا لَكُمْ تَبَعًا فَهَلْ أَنْتُمْ مُعْتَدُونَ عَنَّا مِنْ عَذَابِ اللَّهِ مِنْ شَيْءٍ قَالُوا لَوْ هَدَّيْنَا اللَّهُ لَهَدَيْتَنَا لَهَدَيْتُمْ سِوَاءَ عَلِيْنَا أَجْرِنَا أَمْ صَبَرْنَا مَا لَنَا مِنَ مَحِيصٍ ﴿١٨﴾ وَقَالَ الشَّيْطَانُ لِمَا أَقْبَضَ الْأَمْرَانَ اللَّهُ وَعَدَكُمْ وَعَدَ الْحَقِّ وَعَدْتُكُمْ فَأَخْلَفْتُكُمْ وَمَا كَانَ لِي عَلَيْكُمْ مِنْ سُلْطَنِ إِلَّا أَنْ دَعَوْتُكُمْ فَاسْتَجَبْتُمْ لِي فَلَا تُلْمُونِي وَلَوْلَا أَنْفُسُكُمْ مَا أَنَا بِمُصْرِخِكُمْ وَمَا أَنْتُمْ بِمُصْرِخِي إِيَّيْ كَفَرْتُمْ بِمَا أَشْرَكْتُمْ مِنْ قَبْلُ إِنْ الظَّالِمِينَ لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١٩﴾ وَأَدْخِلَ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا بِإِذْنِ رَبِّهِمْ يُحَيِّتُهُمْ فِيهَا سَلَامٌ ﴿٢٠﴾ أَلَمْ تَرَ كَيْفَ ضَرَبَ اللَّهُ مَثَلًا كَلِمَةً طَيِّبَةً كَشَجَرَةٍ طَيِّبَةٍ أَصْلُهَا ثَابِتٌ وَفَرْعُهَا فِي السَّمَاءِ ﴿٢١﴾

19 人間よ、アッラーがいたずらにではなく、真理によって天地を創造したのを知らないのか？人々よ、もしかれがお望みなら、あなたがたを滅ぼして、かれに従い崇拜する別の民を、あなたがたの代わりに出現させる。それはかれにとって簡単なこと。

20 あなたがたを滅ぼし、別の民を出現させることは、かれにとって不可能でない。かれは全能のお方。

21 復活の日、人々はアッラーへと向かって墓場を出て行く。弱者だった追従者たちは、指導者たちに言う。「指導者たちよ、わたしたちはあなたがたの追従者で、あなたがたの命令と禁止に従っていた。あなたがたはわたしたちを、アッラーの罰から守ってくれるのか？」指導者たちは言う。「アッラーがわたしたちを導いてくれたなら、わたしたちもあなたがたのことも導いて、全員かれの罰から救われたのだが。しかしかれがわたしたちを迷わせたので、わたしたちもあなたがたを迷わせたのだ。罰にあがこうと忍耐しようと、同じこと。罰からの逃げ道はない。」

22 天国の民が天国に、地獄の民が地獄に入る時、イブリースは言う。「アッラーはあなたがたに真の約束をし、それを全うした。わたしはあなたがたに嘘の約束をし、それを全うしなかった。わたしには現世で、あなたがたに不信仰や迷いを強制する力はなかった。わたしはあなたがたを不信仰へと招き、罪をきらびやかに見せ、あなたがたは早々とわたしに従ったのだ。ゆえに自分たちの迷いについてわたしを咎めず、自分たちを咎めよ。それがあなたがたに相応しい。わたしはあなたがたを罰から救うことも出来ず、あなたがたもそうすることは出来ない。あなたがたはわたしをアッラーに並べて崇拜したが、わたしはそのことから無関係だ。現世で多神教を犯し、かれを否定した不正者たちには、審判の日に痛ましい罰がある。」審判の日における不信仰者の行き先の言及による警告がなされた後、信徒の行き先の言及によってそこへの勧めがなされる。

23 不正者たちとは異なり、信仰し正しい行いをしていた者たちは、その邸宅と木々の下から河川が流れる天国に入れられる。かれらは主の許可と御力により、そこに永遠に留まる。かれらはお互いに挨拶し合い、天使たちからも主からも平安の挨拶を受ける。

24 使徒よ、あなたはアッラーが「アッラーの他に崇拜すべきものなし」というアッラーの唯一性の言葉に対し、どのようなたとえを挙げたのかわらないのか？かれはそれを、よい木、つまりナツメヤシの木にたとえた。その根はしっかりとした地面に下ろされ、よい管を通して水を吸収する。その枝は天にそびえ、しずくを吸い、よい空気を取り入れる。

本諸節の功德:

- 虚偽において追従する者もされる者も、その結末は悪いものとなる。
- 悪魔は人間にとって最大の敵だが、嘘つきであり、弱い失望者である。審判の日に追従者はおろか、自分自身に対する力も有してはいない。
- イブリースはアッラーの約束が真実であり、悪魔の約束が完全な嘘であることを認める。
- アッラーの唯一性の言葉と、よい果実と高くそびえる枝、しっかりとした根を持った木の相似性。

تُؤْتِي أَكْثَرَهَا كُلَّ حِينٍ بِإِذْنِ رَبِّهَا وَيَضْرِبُ اللَّهُ الْأَمْثَالَ
 لِلنَّاسِ لَعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ﴿٢٥﴾ وَمَثَلُ كَلِمَةٍ خَيْثِيَّةٍ
 كَشَجَرَةٍ خَيْثِيَّةٍ اجْتَنَّتْ مِنَ فَوْقِ الْأَرْضِ مَا لَهَا مِنْ
 قَرَارٍ ﴿٢٦﴾ يَثْبُتُ اللَّهُ الَّذِينَ ءَامَنُوا بِالْقَوْلِ الثَّابِتِ فِي الْحَيَاةِ
 الدُّنْيَا وَفِي الْآخِرَةِ وَيُضِلُّ اللَّهُ الظَّالِمِينَ وَيَفْعَلُ اللَّهُ
 مَا يَشَاءُ ﴿٢٧﴾ * أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ بَدَلُوا نِعْمَتَ اللَّهِ كَفْرًا
 وَأَحَلُّوا قَوْمَهُمْ دَارَ الْبَوَارِ ﴿٢٨﴾ جَهَنَّمَ بَصُلُوهَا وَبِئْسَ
 الْقَرَارُ ﴿٢٩﴾ وَجَعَلُوا لِلَّهِ أَنْدَادًا لِيُضِلُّوا عَنْ سَبِيلِهِ قُلْ
 تَمَتَّعُوا فَإِن مَصِيرَكُمْ إِلَى النَّارِ ﴿٣٠﴾ قُلْ لِعِبَادِيَ الَّذِينَ
 ءَامَنُوا يُقِيمُوا الصَّلَاةَ وَيُؤْتُوا مِمَّا رَزَقْنَاهُمْ سِرًّا وَعَلَانِيَةً
 مِنْ قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَ يَوْمٌ لَا بَيْعَ فِيهِ وَلَا خِلَالَ ﴿٣١﴾ اللَّهُ الَّذِي
 خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَأَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَخْرَجَ
 بِهِ مِنَ الثَّمَرَاتِ رِزْقًا لَكُمْ وَسَخَّرَ لَكُمُ الْفُلْكَ لِتَجْرِيَ
 فِي الْبَحْرِ بِأَمْرِهِ وَسَخَّرَ لَكُمُ الْأَنْهَارَ ﴿٣٢﴾ وَسَخَّرَ لَكُمُ
 الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ دَائِبِينَ وَسَخَّرَ لَكُمُ اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ ﴿٣٣﴾

25 このよい木は、主のお許しと共にどんな時でもよい果実を提供する。アッラーは人々が教訓を受けるようにと、たとえを挙げられるのだ。

26 他方、多神教の悪い言葉は、悪い木のものである。これはコロシントウリ(ツタ科)の木のごとく、根っこから抜かれ、地に安定しておらず、天に高くもならない。それは枯れ死に、風によって吹き飛ばされる。不信仰の言葉は消え行くのであり、よい行いがあってもアッラーの御許まで上がって行くことはない。

27 アッラーはかれの唯一性の堅固な言葉によって、信徒を堅固にする。現世の生活において死ぬまで、墓の中の質問の試練でも、また審判の日にも、完全な信仰心によって堅固にする。またアッラーは、多神教とかれに対する不信仰による不正者たちを、正道から迷わせる。アッラーはお望みの者を公正さによって迷わせ、お望みの者をその恩寵によって導く。かれが強制されることはない。

28 あなたは、クライシュ族のうちのアッラーとその使徒を否定する者たちの状況を、確かに見た。かれらは清域での安全や、ムハンマドがかれらのうちに遣わされたことというアッラーからの恩恵に対し、不信仰によって応じた。かれらは使徒が伝えるものを否定し、不信仰においてかれらに従った者を滅亡の地に陥らせた。

29 滅亡の地とは、かれらが入り、その熱さに苦しむことになる地獄。その定住地は何と忌まわしいことか。

30 多神教徒たちは自分たちがアッラーの道から迷った後、かれらに従った者たちも迷うように、アッラーに共同者を作った。使徒よ、言え。「現世で欲望を満喫し、それを広めるがよい。審判の日のあなたがたの帰り所は、地獄以外の何ものでもない。」

31 使徒よ、言え。「信徒たちよ、礼拝を完全な形で行い、授かった財産から義務のものを施すだけでなく任意の施しも行い、時には人目を恐れて密やかに、また時には他人への奨励のために公(おおよけ)に施せ。売買も、アッラーの罰からの償いも、執り成してくる友人の友情もない日が来る前に。」

32 アッラーは前例のない形で天地を創造し、天から雨を降らせ、それによってあなたがたへの糧として様々な果実を实らせたお方。かれの定めにより、水上に走る船、そこから飲み、家畜や農作物に水をやる河川を、あなたがたに仕えさせた。

33 またかれは、運行し続ける太陽と月、交替する夜と昼を、あなたがたに仕えさせた。夜はあなたがたの休息、昼はあなたがたの活動と努力のためにと。

本諸節の功德:

- 不信仰の言葉と、コロシントウリの相似性。それは高く伸びずに地を這い、よいものを生まず、長く生き続けない。
- 礼拝と喜捨の命令と、来世の言及との関連性。それはそれら二つを通してこそその日の救いがあることの告知である。
- アッラーの偉大な恩恵を教え上げることには、ある種の者たちのそれらの恩恵に対する忘恩と否定の示唆が見受けられる。

وَأَتذكُرُ مِنْ كُلِّ مَآسَأَلْتُمُوهُ وَإِنْ تَعُدُّوا نِعْمَتَ اللَّهِ لَا تَحْصُوهَا إِنَّ الْإِنسَانَ لَظَلُومٌ كَفَّارٌ ﴿٣٤﴾ وَإِذْ قَالَ إِبْرَاهِيمُ رَبِّ اجْعَلْ هَذَا الْبَلَدَ آمِنًا وَاجْنُبْنِي وَبَنِيَّ أَنْ نَعْبُدَ الْأَصْنَامَ ﴿٣٥﴾ رَبِّ إِنَّهُمْ أَضَلَّانَ كَثِيرًا مِمَّنَّ النَّاسُ فَمَنْ تَبِعَنِي فَإِنَّهُ مِنِّي وَمَنْ عَصَانِي فَإِنَّكَ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٣٦﴾ رَبَّنَا إِنِّي أَسْكَنْتُ مِنْ ذُرِّيَّتِي بُوَادِعَ مَدْيَنَ ذِي زَرْعٍ عِنْدَ بَيْتِكَ الْمُحَرَّمِ رَبَّنَا لِيُقِيمُوا الصَّلَاةَ فَاجْعَلْ أَفْئِدَةً مِنَ النَّاسِ تَهْوِي إِلَيْهِمْ وَارْزُقْهُمْ مِنَ الثَّمَرَاتِ لَعَلَّهُمْ يَشْكُرُونَ ﴿٣٧﴾ رَبَّنَا إِنَّكَ تَعَلَّمَ مَا خَفَى وَمَا عَلَّمْتُ وَمَا يَخْفَى عَلَى اللَّهِ مِنْ شَيْءٍ فِي الْأَرْضِ وَلَا فِي السَّمَاءِ ﴿٣٨﴾ الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي وَهَبَ لِي عَلَى الْكِبَرِ إِسْمَاعِيلَ وَإِسْحَاقَ إِنَّ رَبِّي لَسَمِيعٌ أَلِيمٌ ﴿٣٩﴾ رَبِّ اجْعَلْنِي مُقِيمَ الصَّلَاةِ وَمِنْ ذُرِّيَّتِي رَبَّنَا وَتَقَبَّلْ دُعَاءَ ﴿٤٠﴾ رَبَّنَا اغْفِرْ لِي وَلِوَالِدَيَّ وَلِلْمُؤْمِنِينَ يَوْمَ يَقُومُ الْحِسَابُ ﴿٤١﴾ وَلَا تَحْسَبَنَّ اللَّهُ غَفْلًا عَمَّا يَعْمَلُ الظَّالِمُونَ إِنَّمَا يُؤَخِّرُهُمْ لِيَوْمٍ تَشْخَصُ فِيهِ الْأَبْصَارُ ﴿٤٢﴾

34 **かれ**はあなたがたが求めるものも、そうでないものも、全てあなたがたに与えた。アッラーの恩恵を数え上げようとしても、その多さのためにそうすることは出来ない。あなたがたに言及された恩恵は、単なる一例である。人間はアッラーの恩恵に対する否定の多さゆえ、自分自身に不正を働く者。

35 使徒よ、イブラーヒームが息子イスマーイールとその母ハージャルをマッカの谷に住ませ、こう言った時のことを思い出させよ。「主よ、わが家族を住ませた土地であるマッカを、流血もなく不正もない安全な町として下さい。わたしとわが子孫を、偶像崇拜から遠ざけて下さい。」

36 主よ、偶像は多くの人々を迷わせました。かれらはそれらが執り成してくれんと思つて誘惑され、アッラーを差し置いてそれらを崇拜しました。アッラーの唯一性と服従においてわたしに従った者は、わたしの一派です。しかしわたしに従わなかった者については、あなたはお望みの者をお赦しになり、慈悲をかけて下さる御方。

37 主よ、わたしはわが息子イスマーイールとその子孫を、マッカの谷に住ませました。あなたの館の近くには農作物も水もありません。主よ、わたしはかれらを館の近くに住ませましたが、それはかれらがそこで礼拝を守るためです。だから主よ、人々の心をかれらとこの土地へと慕わせ、かれらがあなたの恩恵に感謝するように、かれらに果実をお授け下さい。

38 主よ、あなたはわたしたちが秘密にすることも公(おおよけ)にすることも、全てご存知です。天地においてアッラーが知らないものはなく、わたしたちの困った状況についても同様です。

39 感謝と賛美はアッラーにこそあります。**かれ**は正しい者をお授け下さいというわたしの祈りに応え、年寄りになった後、ハージャルからイスマーイールを、サーラからイスマーハクを恵んでくれました。わが主は**かれ**に祈る者を聞き届けるお方。

40 主よ、わたしとわが子孫を、完全な形で礼拝を行う者として下さい。主よ、わたしの祈りに応えて、それを受け入れて下さい。

41 主よ、わたしとわが両親の罪をお赦し下さい(これは父親がアッラーの敵であることが判明する前のこと。それが判明した後は父親との関係を断つた)。また、清算のために主の御前に立つ日に、信徒たちの罪も。」

42 使徒よ、不正者たちへの罰に対するアッラーの猶予を、かれらの嘘よばわりやアッラーの道の阻止など、かれらの行いに対する**かれ**の不注意だと考えてはならない。**かれ**はそのことも、全てご存知。**かれ**は、そこで目にする恐怖ゆえに視線が上に向けられる審判の日まで、かれらの罰を猶予される。

本諸節の功德:

- 預言者イブラーヒームがそのために祈った、マッカの徳。
- どれだけ服従と崇拜行為において卓越しても、人は自分自身と子孫に対し、多神教の明白なものや微妙なものを恐れるべきである。
- イブラーヒームの祈りは、どれだけ人の位が高かったとしても、アッラーを必要とし続けることを示している。
- 子孫に対して正しさとよい信仰、宗教儀礼の遂行における成功を祈るのは、教育の手法の一つ。

مُهْطِعِينَ مُقْنِعِي رُءُوسِهِمْ لَا يَرْتَدُّ إِلَيْهِمْ طَرْفُهُمْ
 وَأَفْعِدْتُهُمْ هَوْلَهُ ④٧ وَأَنْذِرِ النَّاسَ يَوْمَ يَا تَبِهُمُ الْعَذَابُ
 فَيَقُولُ الَّذِينَ ظَلَمُوا رَبَّنَا آخِرْنَا إِلَىٰ آجَلٍ قَرِيبٍ يُجِيبُ
 دَعْوَتَكَ وَتَتَّبِعُ الرَّسُولَ ④٨ أُولَئِكَ كُونُوا آفَئِسْتُمْ مِنْ قَبْلُ
 مَا لَكُمْ مِنْ زَوَالٍ ④٩ وَسَكَتُمْ فِي مَسْكِينَ الَّذِينَ ظَلَمُوا
 أَنْفُسَهُمْ وَتَبَيَّنَ لَكُمْ كَيْفَ فَعَلْنَا بِهِمْ وَضَرَبْنَا لَكُمْ
 الْأَمْثَالَ ⑤٠ وَقَدْ مَكَرُوا مَكْرَهُمْ وَعِنْدَ اللَّهِ مَكْرُهُمْ
 وَإِنْ كَانَ مَكْرُهُمْ لِتَزُولَ مِنْهُ الْجِبَالُ ⑤١ فَلَا
 تَحْسَبَنَّ اللَّهَ مُخْلِفَ وَعْدِهِ رُسُلَهُ ⑤٢ إِنَّ اللَّهَ عَزِيزٌ
 ذُو انْتِقَامٍ ⑤٣ يَوْمَ يَبْدَلُ الْأَرْضَ عَيْرَ الْأَرْضِ وَالسَّمَوَاتِ
 وَبَرَزُوا لِلَّهِ الْوَاحِدِ الْقَهَّارِ ⑤٤ وَتَرَى الْمُجْرِمِينَ يَوْمَئِذٍ
 مُقَرَّنِينَ فِي الْأَصْفَادِ ⑤٥ سَرَابِيلُهُمْ مِنْ قَطْرَانٍ وَتَعْشَى
 وُجُوهُهُمُ النَّارَ ⑤٦ لِيَجْزِيَ اللَّهُ كُلَّ نَفْسٍ مَا كَسَبَتْ
 إِنَّ اللَّهَ سَرِيعُ الْحِسَابِ ⑤٧ هَذَا بَلَاغٌ لِلنَّاسِ وَإِنْذِرُوا بِهِ
 وَلِيَعْلَمُوا أَنَّ مَا هُوَ إِلَهٌُ وَحِيدٌ وَلِيَذَّكَّرَ أُولُو الْأَلْبَابِ ⑤٨

ラーの御前に立つ。かれはその王権と偉大さにおいて唯一のお方、制圧されることはなく制圧するお方。

④9-⑤0 使徒よ、大地が別の大地と、天が取って替えられる日、あなたは不信仰者たちや多神教徒たちが、互いに枷(かせ)を付けてつながれているのを見る。両手足は首にくさりてつながれ、衣服は燃えやすいタール製。歪む顔を炎が覆う。

⑤1 それはアッラーが全ての者に、善行や悪行に対して報いるため。アッラーは行いの清算が早いお方。

⑤2 ムハンマドに下されたこのクルアーンは、アッラーから人々への通知。その中にある警告を人々が恐れ、アッラーだけが真に崇拜すべきお方であることを知り、かれに何も並べることなく崇拜するためである。また、正しい理性を備えた者たちが教訓を役立て、戒(いまし)めを得るためである。

本諸節の功德:

● 人々の不安、恐怖、弱さ、天地が別のものと取って替えられることなどの、審判の日の光景の描写。

● 審判の日に罪と不信仰の民を襲う、罰の厳しさと屈辱の描写。

● 現世の生活において恵まれた状況にある者は、服従行為に努力すべきである。審判の日にアッラーによって復活させられたら、もう機会是与えられない。

④3 人々が墓場から、呼ぶ者へと急いで出て行く時、かれらは頭を上げて不安そうに天を眺める。視線は自分自身に戻らず、恐怖の光景に釘付けになる。心は空っぽで、余りの恐ろしさゆえに理性も働かない。

④4 使徒よ、あなたの共同体を、審判の日のアッラーの罰に対して恐れさせよ。その時、アッラーへの不信仰と多神教ゆえに自らに不正を働いた者たちは、言う。「主よ、わたしたちを猶予して、罰を遅らせて下さい。少しだけわたしたちを現世に戻して下さい。そうすればあなたを信じ、あなたが遣わした使徒を信じます。」すると、お咎めの返答がされる。「あなたがたは死後の復活を否定し、現世から来世に移ることなどないと現世で誓っていたのではないか？」

④5 あなたがたは、アッラーへの不信仰ゆえに自らに不正を働いていた、フードやサーリフの民といった、あなたがた以前の不正の民の土地に滞在した。そしてわれらがかれらに下した破滅は、明らかになったのだ。われらはあなたがたが教訓を得るように、アッラーの書の中で様々なたとえを挙げたが、あなたがたは教訓を得なかった。」

④6 不正な民の住みかに滞在していた者たちは、預言者ムハンマドの殺害とその布教の壊滅をたくらんだ。アッラーはかれらの企(たくら)みも全てご存知であり、かれらの企みは弱いもの。アッラーのご采配と異なり、かれらは山すらも無くすことが出来ない。

④7 使徒よ、アッラーが使徒たちを援助し、宗教を勝利させるというかれのお約束に反すると考えるのではない。かれは誰にも負けることがない偉大なお方であり、その援助者たちを威光高きものとする。そしてかれとかれの使徒たちの敵に、厳しく報復される。

④8 不信仰者たちに対するこの報復は、大地が純白の別の大地と、天が別の天と取って替えられる審判の日に起こる。人々は自らの身体と行いと共に墓場から現れ、アッラーの御前に立つ。かれはその王権と偉大さにおいて唯一のお方、制圧されることはなく制圧するお方。